

平成 25 年度
事業報告書

(自) 平成 25 年 4 月 1 日
(至) 平成 26 年 3 月 31 日

社会福祉法人 南丹市社会福祉協議会

目 次

法人運営理念・サービス精神・職員心得	1
総 括	2
会員の状況	3
法人運営の状況	4
地域福祉の部	
包括支援の部	
居宅介護等事業・施設運営の部	

法人運営理念

すべての住民のこころが輝く福祉のまちづくり

法人運営基本方針

〔住民との福祉の共創〕

すべての住民が支え合い、学び合い、福祉活動に参加できる地域社会を目指します。

〔福祉協働社会の構築〕

地域のあらゆる機関・団体と協働し、すべての住民が、心豊かで安全に安心して暮らせる福祉のまちづくりに、計画的に取り組めます。

〔選ばれる福祉サービスの提供〕

地域に密着した支援体制の整備・開発を提言・実施し、質の高いサービスを提供します。

南丹市社会福祉協議会 サービス精神

- 一、お客様にあくまでも満足していただくサービスを提供しなければならない。
- 一、サービスは、高度で専門的でなければならない。
- 一、サービスの提供は、的確にかつ迅速・効率的に行わなければならない。
- 一、常に、お客様の側に立って、助言を与えなければならない。

南丹市社会福祉協議会 職員心得

- 一、お客様にはいつもほほえんで、その場にふさわしいご挨拶をしよう。
- 二、どのお客様にも誠心誠意をつくして、丁寧かつ好意的な言葉と態度で接しよう。
- 三、お客様の様々な質問と要求には迅速かつ的確に答え、その場で答えられない問題は、自ら責任を持って回答を得るようにしよう。
- 四、お客様からの要求がなくとも、お客様のニーズを察知することによって問題を解決しよう。

総 括

近年の経済情勢低迷や急速な少子高齢化・人口の減少、更には、核家族化に伴い、家庭や地域で支え合う力が弱まるとともに、地域で孤立する人が増加している。また、社会情勢の変化に伴い、地域生活における課題も複雑・多様化している。

こうした状況と併せ、本年度は第1期南丹市地域福祉活動指針「なんたんふれあいプラン」の最終年度として、「すべての住民が、ふれあい、支え合いながら、いつまでも安全に安心していきいきと地域で暮していけるよう、地域の福祉力を高め、市民が主役の地域福祉活動を推進する」という活動指針の理念に基づくまちづくり実現に向けた取り組みを進めた。特に、「ふれあい」を合言葉に民生児童委員とふれあい委員による見守り活動を中心として連携強化を図るとともに、地域別懇談会やサロン活動の活性化など、住民主体の取り組みにより重点を置いて展開した。

また、市民に寄り添う福祉サービスの提供を心がけ、そうした個別の支援を通じて表面化する公的サービスの狭間で苦しむ人々にこそ目を向け、ケース会議等から、その解決の糸口を模索し、地域住民との協働につなげるなど、地域福祉の視点をもって福祉サービスの提供に努めた。

今後も、支援を必要とする人々が増加することが見込まれ、住民主体の地域福祉活動がますます重要となる中、地域福祉推進の中核となる団体として、当会は各関係機関・団体との連携をさらに強化し、社会福祉活動・事業の健全な発達を図るために必要な助言・情報提供・援助を行っていききたい。

また、9月に発生した台風18号災害では、災害ボランティアセンターを迅速に立ち上げ、被災住民から多くの要請に応えることができ、南丹市との協定締結や災害ボランティアセンター運営支援ボランティア養成の取り組みなど、これまでの備えが功を奏したことは評価できる点ではないだろうか。しかしながら、災害ボランティアセンターを有事に運営する中で、「困ったこと」や「もっと備えをしておくべきだったこと」など、平常時には想定できていなかった課題も少なからず明らかとなっており、今回の経験で得た教訓を、今後の平常時の地域福祉活動に生かす取り組みにも力を入れていきたい。

公益性の高い社会福祉事業者である社協として、事業経営の責任を自覚し社会的使命を果たすため、引き続き発展・強化計画に基づいて、組織を横断して編成した職員プロジェクトチームを中心に議論を重ね、法人をあげて改革を現実のものにしていきたい。

平成 25 年度

会員の状況

※世帯数：南丹市公表(但し、施設等を除く【平成25年 4月 1日現在】)

支 所	世帯数	普通会员		特別会員		世帯加入率 普通・特別計
		件数	金 額	件数	金 額	
本 所	—	0	0	3	6,000	—
園 部 支 所	6,149	2,856	3,098,000	20	42,000	46.8 %
八 木 支 所	2,996	1,833	1,830,000	11	50,000	61.5 %
日 吉 支 所	2,107	1,294	1,290,500	23	64,000	62.5 %
美 山 支 所	1,864	1,236	1,236,000	28	61,000	67.8 %
合 計	13,116	7,219	7,454,500	85	223,000	55.0 %

支 所	賛助会員		ふるさと会員		本年度合計金額
	件数	金 額	件数	金 額	
本 所	0	0	0	0	6,000
園 部 支 所	62	310,000	0	0	3,450,000
八 木 支 所	3	20,000	1	10,000	1,910,000
日 吉 支 所	16	80,000	0	0	1,434,500
美 山 支 所	9	43,000	0	0	1,340,000
合 計	90	453,000	1	10,000	8,140,500

支 所	普通・特別会費 前年度対比		会費合計 前年度対比	
	前年度金額	増 減	前年度金額	増 減
本 所	0	6,000	0	6,000
園 部 支 所	3,151,000	△ 11,000	3,451,000	△ 1,000
八 木 支 所	1,950,500	△ 70,500	1,950,500	△ 40,500
日 吉 支 所	1,323,000	31,500	1,403,000	31,500
美 山 支 所	1,293,500	3,500	1,306,500	33,500
合 計	7,718,000	△ 40,500	8,111,000	29,500

平成 25 年度 法人運営の状況

＜理事会の開催状況＞

回	開催日	場所	出席	協議事項
第 1 回	5 月 28 日 (火)	本 所	理事 16 監事 2 その他 9	① 平成24年度 事業報告(案)について ② 平成24年度 決算(案)について ③ 平成25年度 第1次 補正予算(案)について ④ 評議員交代の同意について ⑤ 規程の一部改正について ⑥ 任期満了に伴う評議員の選任について
第 2 回	6 月 1 日 (土)	本 所	理事 14 監事 1 その他 9	① 会長、副会長の互選について ② 顧問選任の同意について ③ 委員交代の同意について
第 3 回	3 月 27 日 (木)	本 所	理事 11 監事 1 その他 11	① 評議員・委員の交代同意について ② 定款変更について ③ 障害児相談支援事業 運営規程の制定について ④ 事務局規程の改正・職員重要人事の同意について ⑤ 第2期 南丹市地域福祉活動計画の策定について ⑥ 平成26年度 事業計画(案)・収支予算(案)について

＜評議員会の開催状況＞

回	開催日	場所	出席	協議事項
第 1 回	5 月 25 日 (土)	本 所	評議員 30 理事 5 監事 2	① 平成24年度 事業報告(案)について ② 平成24年度 決算(案)について ③ 平成25年度 第1次 補正予算(案)について ④ 任期満了に伴う役員(理事・監事)の選任について
第 2 回	3 月 27 日 (木)	本 所	評議員 20 理事 3 監事 1	① 役員(理事)の選任について ② 定款変更について ③ 事務局規程の改正について ④ 第2期 南丹市地域福祉活動計画の策定について ⑤ 平成26年度 事業計画(案)について ⑥ 平成26年度 収支予算(案)について

＜監事監査の実施状況＞

回	開催日	場所	出席	監査事項・指摘事項
第 1 回	5 月 20 日 (月)	本 所	監事 2 理事 1	① 平成24年度 事業(法人運営・実施事業等) ② 平成24年度 決算(会計・経理等) ※適正と認める
第 2 回	11 月 21 日 (木)	本 所	監事 2 理事 1	① 平成25年度 上半期 事業(法人運営・実施事業等) ② 平成25年度 上半期 決算(会計・経理等) ※適正と認める

〈理事会総務部会の開催状況〉

回	開催日	場所	出席	協議事項
第 1 回	5 月 21 日（火）	本 所	委員 4 その他 6	① 理事会審議事項について ② 平成24年度 事業報告(案)について ※法人運営状況 ③ 平成24年度 決算(案)について
第 2 回	7 月 23 日（火）	本 所	委員 4 その他 4	① 組織・機構改革(発展・強化計画)について
第 3 回	10 月 17 日（木）	本 所	委員 3 その他 4	① 報告事項 ※職員募集、事業計画立案・予算編成スケジュール ※台風18号災害に伴う災害VＣ活動について ② 組織・機構改革(発展・強化計画)について
第 4 回	12 月 18 日（水）	本 所	委員 4 その他 4	① 報告事項 ※上半期 監事監査、南丹市福祉予算要望 ※台風18号災害にかかる被災世帯への見舞金支給 ② 組織・機構改革(発展・強化計画)について
第 5 回	3 月 14 日（金）	本 所	委員 3 その他 5	① 報告事項 ※第2期 南丹市地域福祉活動計画の策定 他 ② 理事会審議事項について ③ 平成26年度 事業計画(案)・収支予算(案)について

〈理事会地域福祉部会の開催状況〉

回	開催日	場所	出席	協議事項
第 1 回	5 月 15 日（水）	日吉支所	委員 6 その他 10	① 平成24年度 事業報告(案)について ※地域福祉の部 ※包括支援の部
第 2 回	8 月 1 日（木）	本 所	委員 4 その他 8	① 報告事項 ※第2期 南丹市地域福祉計画について ② 第1四半期事業実施状況(地域福祉部・包括支援部) ③ 法人後見実施要綱(案)について
第 3 回	10 月 15 日（火）	本 所	委員 4 その他 6	① 第1四半期事業実施状況(地域福祉部・包括支援部) ② 台風18号災害に伴う災害VＣ活動について ③ 第2期 南丹市地域福祉活動計画について ④ 徘徊模擬訓練、共同募金運動について
第 4 回	12 月 6 日（金）	本 所	委員 4 その他 7	① 委員交代について ② 上半期事業実施状況(地域福祉部・包括支援部)
第 5 回	3 月 11 日（火）	本 所	委員 3 その他 9	① 第2期 南丹市地域福祉活動計画の策定について ② 平成26年度 事業計画(案)について ③ 平成26年度 収支予算(案)について ④ 理事会審議事項について

＜理事会事業部会の開催状況＞

回	開催日	場所	出席	協議事項
第 1 回	5 月 14 日（火）	本 所	委員 5 その他 12	① 平成24年度 事業報告(案)について ② 平成24年度 収支決算(見込)について
第 2 回	7 月 30 日（火）	本 所	委員 4 その他 8	① 各事業所の現況・課題について ② 小規模多機能ホーム スプリンクラー設置について ③ あじさい園 工賃支給規程の改正について
第 3 回	10 月 18 日（金）	本 所	委員 3 その他 8	① 台風18号災害に伴う災害V.C活動について ② 小規模多機能ホーム スプリンクラー設置について ③ 相談支援事業所の開設について
第 4 回	12 月 4 日（水）	本 所	委員 3 その他 8	① 平成25年度 上半期 事業報告について ② 小規模多機能ホーム スプリンクラー設置について ③ 相談支援事業所の開設について
第 5 回	3 月 13 日（木）	本 所	委員 4 その他 9	① 平成26年度 事業報告(案)について ② 平成26年度 収支予算(案)について ③ 理事会審議事項について

＜南丹市指導監査の実施状況＞

回	開催日	場所	出席	指摘事項
第 1 回	3 月 24 日（月）	本 所	監査官 3 当方 8	[法人運営] ① 評議員会に欠席がちの者がいるため、開催日の日程調整を十分行い、欠席が続くことがないよう配慮すること。 ② 会長の専決事項に該当しない契約は、競争入札や随意契約の見積合わせを実施する前に契約方法・契約内容等主要な事項について理事会の承認を得るとともに、その契約締結に当たっては理事会の承認後に行うこと [法人経理] ③ 固定資産管理台帳に掲載される10万円以上の備品については、事前に会計責任者の承認を得たうえ購入すること。

〈正・副会長会の開催状況〉

回	開催日	場所	主な協議事項
第 1 回	4 月 24 日 (水)	日吉支所	評議員選任について 日本赤十字社員増強運動について 職員採用について
第 2 回	5 月 24 日 (金)	本 所	理事会・評議員会審議事項について 平成24年度 事業報告(案)について 平成24年度 決算(案)について
第 3 回	6 月 26 日 (水)	本 所	南丹市市民福祉部との協議事項について 定数改正に伴う副会長の職務と正副会長会運営について ふれあい型給食事業に対する保健所の指導について
第 4 回	7 月 24 日 (水)	本 所	南丹市市民福祉部との協議事項について 地域別懇談会の実施について 市総合防災訓練・災害V C運営支援V 養成講座について
第 5 回	8 月 27 日 (火)	本 所	南丹市市民福祉部との協議事項について 平成26年度 事業計画立案・予算編成スケジュール 地域別懇談会開催状況について
第 6 回	10 月 24 日 (木)	本 所	京都府社会福祉大会への参加について 台風18号災害に伴う災害V C活動について 台風18号災害にかかる被災世帯への見舞金支給について
第 7 回	11 月 28 日 (木)	本 所	台風18号災害にかかる被災世帯への見舞金支給について ふれあい型給食事業に対する保健所の指導について 監事監査の実施について(報告)
第 8 回	12 月 25 日 (水)	本 所	上半期 経営事業の状況／平成26年度 職員採用内定状況 民生児童委員任期満了に伴う当会役員・委員等の交代 平成26年度 南丹市福祉予算要望状況について
第 9 回	1 月 22 日 (水)	本 所	南丹市市民福祉部との協議事項について 施設利用者のノロウィルス感染対策について 今後の訪問入浴介護事業の経営について
第 10 回	2 月 26 日 (水)	本 所	平成26年度 職員人事について 第 2 期 南丹市地域福祉活動計画(案案)について 訪問入浴介護事業の休止について
第 11 回	3 月 10 日 (月)	本 所	理事会・評議員会審議事項について 平成26年度 事業計画(案)について 平成26年度 収支予算(案)について

＜企画委員会の開催状況＞

回	開催日	場所	主な協議事項
第 1 回	6 月 24 日（月）	本 所	第 2 期 なんとんふれあいプラン策定について 地域別懇談会について
第 2 回	8 月 19 日（月）	本 所	第 2 期 なんとんふれあいプラン全体構成等について
第 3 回	10 月 18 日（金）	本 所	第 2 期 なんとんふれあいプラン素案について
第 4 回	12 月 11 日（水）	本 所	第 2 期 なんとんふれあいプラン素案について
第 5 回	2 月 14 日（金）	本 所	第 2 期 なんとんふれあいプラン校正

＜企画小委員会 合同会議の開催状況＞

回分	開催日	場所	主な協議事項
第 1 回	5 月 29 日（水）	本 所	第 2 期 なんとんふれあいプラン策定諮問 小委員会の活動計画等
第 2 回	3 月 10 日（月）	本 所	第 2 期 なんとんふれあいプラン答申案 次年度に向けて

＜園部支所 企画小委員会の開催状況＞

回	開催日	場所	主な協議事項
第 1 回	7 月 1 日（月）	はぎの里 オアシス	第 2 期 なんとんふれあいプラン策定について 地域別懇談会について
地域別 懇談会	7/25(木)摩気, 8/30(金)西本梅, 10/11(金)元桐, 11/ 7(木)川辺, 11/22(金)元町, 11/29(金)元村		南丹市地域福祉計画策定について 「つながり」をテーマに懇談
第 2 回	12 月 17 日（火）	園部支所	第 2 期 なんとんふれあいプラン素案について 地域別懇談会総括について

＜八木支所 企画小委員会の開催状況＞

回	開催日	場所	主な協議事項
第 1 回	7 月 25 日（木）	八木支所	企画小委員会正副委員長の選出について 南丹市地域福祉計画・なんたんふれあいプランについて 地区別懇談会について
第 2 回	9 月 18 日（水）	八木支所	他町地区別懇談会の状況、南丹市V.C開設について 地区別懇談会について 平成25年度 ふれあい交流会について
第 3 回	11 月 14 日（木）	八木支所	台風18号 南丹市災害ボランティアセンター活動報告 第2期 なんたんふれあいプラン案案について 平成25年度ふれあい交流会について
第 4 回	1 月 20 日（月）	八木支所	第2期 なんたんふれあいプラン案案について 平成25年度 ふれあい交流会について 地区別懇談会について(次年度計画)

＜日吉支所 企画小委員会の開催状況＞

回	開催日	場所	主な協議事項
第 1 回	7 月 3 日（水）	日吉支所	地区懇談会について 地域福祉推進モデル事業について 第2期なんたんふれあいプランについて
地域別懇談会	7/24(水)世木, 7/30(火)胡麻, 8/ 1(木)五ヶ荘, 8/ 6(火)保野田・志和賀		見守り活動の紹介、他県の地域住民活動の紹介 意見交換(テーマ: 地域住民として自分には何ができるか) 地域福祉推進モデル事業の紹介
第 2 回	9 月 6 日（金）	日吉支所	地区懇談会 総括について 地域福祉推進モデル事業について
第 3 回	12 月 3 日（火）	日吉支所	台風18号 南丹市災害ボランティアセンター活動報告 第2期 なんたんふれあいプランについて 地域福祉推進モデル事業について
第 4 回	2 月 3 日（月）	日吉支所	第2期 なんたんふれあいプラン案案について

＜美山支所 企画小委員会の開催状況＞

回	開催日	場所	主な協議事項
第 1 回	6 月 28 日（金）	美山支所	モデル事業の指定について 地域別懇談会の開催計画について ※各地区福祉推進協議会代表者も出席
地域別懇談会	8/20(火)知井, 8/28(水)鶴ヶ岡, 8/30(金)宮島, 9/30(月)平屋, 10/29(火)大野		サロン立ち上げについて・地区内の福祉活動の現状と課題 ふれあい委員活動見える化・ふれあいプランへの意見集約 宮島地区福祉推進組織の設立に向けて
第 2 回	1 月 24 日（金）	美山支所	第2期 なんたんふれあいプラン案案について

〈広報委員会の開催状況〉

回	開催日	場所	主な協議事項
第 1 回	5 月 27 日 (月)	日吉支所	正・副委員長の互選 『なんたん社協だより』(第18号)の発行について
第 2 回	8 月 30 日 (金)	本 所	『なんたん社協だより』(第19号)の発行について
第 3 回	12 月 4 日 (水)	本 所	『なんたん社協だより』(第20号)の発行について
第 4 回	3 月 5 日 (水)	日吉支所	『なんたん社協だより』(第21号)の発行について

〈ボランティアバンク運営委員会の開催状況〉

回	開催日	場所	主な協議事項
第 1 回	5 月 31 日 (金)	本 所	正・副委員長の互選 今年度の委員会活動について ボランティアバンク助成について
第 2 回	6 月 27 日 (木)	本 所	ボランティアバンク助成申請に対する委員会意見(審査) ボランティア交流会の開催について
第 3 回	9 月 6 日 (金)	本 所	ボランティアバンク助成決定について ボランティア交流会の開催について
第 4 回	11 月 28 日 (木)	スプリングス ひよし	ボランティア交流会のふりかえり

〈生活福祉資金調査委員会の開催状況〉

回	開催日	場所	主な協議事項
第 1 回	7 月 19 日 (金)	本 所	平成25年度 夏期 くらしの資金 貸付について くらしの資金償還状況・不納欠損処理について 生活福祉資金貸付制度の変更等について
第 2 回	12 月 4 日 (水)	本 所	平成25年度 冬期 くらしの資金 貸付について くらしの資金償還状況について 生活福祉資金貸付制度 新規受付と変更申請等について

〈苦情解決第三者委員会・個人情報保護委員会の開催状況〉

回	開催日	場所	主な協議事項
			※委員会の定期開催が見直され、利用者等から当委員会へ 申し立てがあった場合に随時開催することとなった。 ※今年度は、申し立てがなく、委員会の開催はなかった。

＜善意銀行運営委員会の開催状況＞

回	開催日	場所	主な協議事項
第 1 回	11 月 26 日（火）	本 所	正・副委員長の互選 台風18号災害にかかる災害ＶＣ活動について（報告） 台風18号災害にかかる被災世帯への見舞金支給について
第 2 回	3 月 11 日（火）	本 所	委員の交代に伴う副委員長の互選 災害見舞金支給実績について（報告） 平成26年度 善意銀行 事業計画・収支予算（案）について

※平成25年度 福祉基金（善意銀行積立金）残額（単位：円）

区分	内 容	積立額	取崩額	
繰越	前年度末積立金残高	40,842,627		
取崩	見舞金（38件）		420,000	
積立	特別積立・預金利息	7,010,653		積立金残額
合 計		47,853,280	420,000	47,433,280

地域福祉の部

総 括

今年度は、南丹市地域福祉活動指針「なんたんふれあいプラン」の最終年度となる中、「第2期なんたんふれあいプラン」の策定に取り組んだ。第2期プラン策定にあたっては、これまで積み上げてきた成果の上に、さらに具体的な事業・活動に取り組んでいくため、「活動指針」から「活動計画」とすることとし、企画委員会に諮問を行った。地域別懇談会やネットワーク会議等の場で、これまでの取り組みの評価や今後取り組むべき課題等について意見や提言をいただき、それをふまえて、職員プロジェクトチームにおいて計画素案を作成し、企画委員会・企画小委員会での協議を重ねていただき、年度末に答申がなされ、第2期南丹市地域福祉活動計画「なんたんふれあいプラン」として策定した。

プラン策定と並行して、「地域の見守り」をキーワードとして今年度の取り組みを進めた。具体的には、住民主体の福祉推進組織づくりを進めるため、「地域福祉推進モデル事業」に取り組み、地域全体で支え合い・助け合う仕組みづくりをめざす地域を指定するための公募を行った。その結果、平屋地区地域福祉推進協議会を指定地域として活動支援を行った。次年度においても支援を継続し、他地域での取り組みのモデルとなるよう取り組みたいと考えている。

ふれあい委員活動については、活動がさらに広がり、活性化していくことが必要であるため、今年度は、年度当初に開催する研修において、ふれあい委員の役割や活動について理解を深めていただける内容にしようと、各地域でのふれあい委員の活動を映像で紹介するなど、少しでも活動につなげてもらえるよう工夫した。また、懸案であった市レベルでのふれあい委員代表者会議が開催でき、ふれあい委員の活動の現状や今後の活動のあり方など、委員同士が意見や情報を交換できたことは、今後につながる有意義な場となったと考えている。

生活支援のしくみづくりについては、安心生活創造事業により、見守り情報の記録管理システムの導入などに取り組んだ。さらに、南丹市地域福祉計画の重点プロジェクトに掲げられているコミュニティソーシャルワークの推進について、市との協議を重ねる中、生活困窮者に対する国の方向が示されるなどの動きを受け、コミュニティソーシャルワーカー配置が現実味を帯びることとなった。

今年度は市の総合防災訓練の実施が予定されていたことから、南丹市社協として災害ボランティアセンター運営訓練を実施すべく準備を進めていたところ、台風18号による未曾有の災害が発生し、多くの市民が被災されることとなった。この事態を受け、市と締結した「災害時におけるボランティア活動等に関する協定」の発動となり、はじめて災害ボランティアセンターを立ち上げることとなった。14日間の災害ボランティアセンター運営となったが、「活かされたこと」「助かったこと」「困ったこと」「不安だったこと」など、今回の経験で得た教訓を有事に生かすと共に、今後の地域福祉活動に生かすことが重要と考えている。

次年度は、第2期南丹市地域福祉活動計画のスタートとなる。ますます社協の真価が問われてくると考えている。

1. 地域福祉の推進

① 南丹市地域福祉活動指針「なんたんふれあいプラン」の推進

現行プランの最終年度となる平成25年度の取り組みは、「地域の見守り」をサロン活動をはじめ、すべての事業や活動を進めるキーワードとすることを意識するとともに、次期プランの策定議論にも生かす方向で取り組んだ。地域別懇談会において、区や自治会、民生児童委員、ふれあい委員、サロン代表、老人クラブなど、地域福祉に取り組んでいただいている方々に広く呼びかけ、意見交換を行い、その意見や提言をふまえて、職員プロジェクトチームにおいて計画素案を作成し、企画委員会・企画小委員会での協議を重ねた。そして「活動指針」から「活動計画」とした、第2期南丹市地域福祉活動計画「なんたんふれあいプラン」を策定した。

- (1) 地域福祉活動計画策定プロジェクトチーム会議：12回（毎月1回）
- (2) 企画委員会の開催：5回（6月、8月、10月、12月、2月）
- (3) 合同企画小委員会の開催：2回（5月、3月）
- (4) 企画小委員会の開催：各支所2回～4回
- (5) 地域別懇談会・ブロック会議の開催：各支所4回から8回
 - ア) 園部地域 7月～11月 186人参加 6地区
 - イ) 八木地域 5月～2月 596人参加 10ブロック（各5回）※ふれあいネットワークブロック会議
 - ウ) 日吉地域 7月～8月 92人参加 4ブロック
 - エ) 美山地域 8月～10月 187人参加 5地区
- (6) ふれあいいきいきサロン活動支援
 - ア) 新規サロンの立ち上げ 4サロン
 - イ) ふれあいサロン協力者交流会の実施 1回（高島フォーラム）
 - ウ) サロン活動への助成 98サロン 延べ657回開催 延べ9,496人参加

② 住民主体の福祉推進組織づくり

「地域福祉推進モデル事業」として、地域での支え合い助け合いの仕組みづくりを行う地域を公募し、住民主体の福祉推進組織づくりを進めることとした。公募と並行して各支所で指定に向けた働きかけを行い、その結果、平屋地区地域福祉推進協議会をモデル地域として指定し、活動支援・情報発信を行った。次年度も活動支援を継続し、他地域にも広がるよう取り組みたい。

③ ふれあい委員活動の「見える化」

ふれあい委員活動として、引き続き「あんしん・あんぜんの日活動」を民生児童委員と連携し取り組んだ。また、年度当初の研修では、ふれあい委員の役割や活動事例の紹介を行い、委員活動につなげてもらうようにした。また、懸案となっていた市全体のふれあい委員代表者会議を開催し、活動の現状や今後の活動のあり方等について情報交換や意見交換ができる場が設定できた。

年度末には、ふれあい委員を対象にアンケートを実施した。その結果は今後に生かしていきたい。

- (1) ふれあい委員研修の開催（支所毎） 4月 153人参加（園部50人、八木57人、日吉21人、美山25人）
- (2) 八木地域ふれあい交流研修会の開催（民生児童委員、ふれあい委員他） 1月26日（日） 69人参加
- (3) 八木地域ふれあいネットワークブロック代表者会議開催 6月、10月、3月 35人参加
- (4) 園部地域ブロック長会議の開催 7月 6人参加
- (5) 日吉地域正副会長会議の開催 8月 3人参加
- (6) 日吉地域ブロック会議の開催 9月、10月 13人参加
- (7) 市全体ふれあい委員代表者会議の開催 2月 14人参加

④ 生活支援の仕組みづくり ～つながろう南丹見守りネットワーク～（安心生活創造事業）

相談体制と地域での見守り体制の向上を図るため、市からの委託事業として、安心生活創造事業に取り組んだ。包括支援センターの相談情報と地域福祉事業課の見守り情報を共有する、見守り活動記録管理システムを導入し、住民の安心生活支援の環境づくりに取り組んだ。また、見守りや生活支援の仕組みづくりの先進事例を学ぶ研修会にも参加した。社協内では多職種職員の連携を進めるためのケースメソッド研修を実施した。さらに、南丹市地域福祉計画の重点プロジェクトに掲げられている、コミュニティソーシャルワークの推進について、市との協議を重ねる中、国の生活困窮者対策と相まって、コミュニティソーシャルワーカー配置が現実味を帯びた。

(1) 見守り研修会の開催	11月10日(日)	54人参加
(2) きょうと地域福祉活動実践交流会へ参加	2月 1日(土)	25人参加
(3) 町内・集落福祉全国サミットへ参加	2月15日(土)	9人参加
(4) 高島見守りフォーラムへ参加	3月 8日(土)	24人参加
(5) ケースメソッド研修（多職種連携研修）の実施	2月28日(金)	18人参加

⑤ ボランティアコーディネートの機能強化（ボランティア活動の振興）

ボランティア活動の振興を図るため、ボランティア基金による各ボランティアへの助成及びボランティア連絡協議会への助成を行った。また、ボランティアバンク運営委員会主催による、ボランティア交流会を開催し、講演会及び活動を紹介するパネル展示を行った。また、市内各小学校からの依頼を受け、福祉体験学習の支援を行った。さらに、きょうと介護・福祉ジョブネット主催の「次世代の担い手育成事業」について、園部小学校4年生の取り組みを支援した。

- (1) ボランティアバンク運営委員会の開催 4回
- (2) ボランティア基金の運用益活用
 - ア) 基金原資93,000千円：今年度運用実績(運用収入) 1,930千円(単純運用率：2.075%)
 - イ) ボランティア交流会の開催：11月16日(土)
 - ウ) ボランティアグループ助成：59グループ
 - エ) ボランティア連絡協議会への助成：4町協議会
- (3) 傾聴セミナーの開催 北部：3回(7月、8月、10月)、南部：3回(8月、9月、10月)
- (4) 音訳ボランティア養成講座の開催 北部・南部 各3回(7月～8月)
- (5) 夏休みボランティア体験講座の開催 園部：8月8日、八木：7月25日、8月9日
- (6) 児童生徒の福祉体験教育支援
 - ア) 次世代の担い手育成事業：園部小学校4年生
 - イ) 市内小学校での体験学習
 - ウ) 市内小学校へのボランティアグループの紹介・調整

⑥ 災害ボランティア活動

昨年度に続き、災害ボランティアセンター運営支援ボランティア養成講座を支所ごとに開催した。

また、9月には台風18号による未曾有の災害が発生し、多くの市民が被災されることとなった。この事態を受け、南丹市との間に締結した「災害時におけるボランティア活動等に関する協定」に基づき、南丹市社協としてはじめて「災害ボランティアセンター」を設置し、不安はあったものの、府社協及び府下市町村社協の応援と運営支援ボランティア養成講座受講者をはじめ、市内外の多くのボランティアの力により、9月17日から30日にかけて、14日間のセンター運営を行い、早期の復旧作業を進めることができた。

この経験を今後の有事に備えるための教訓としていかなければならないと考える。

【災害関連については別に報告】

⑦ ふれあい型給食 ※園部町・八木町・美山町で実施

調理ボランティアや民生児童委員協議会等の配食ボランティアの協力のもと、見守り・安否確認を兼ねて食事を提供した。年度当初に南丹保健所から営業行為に相当するもので許可が必要との指導を受けた。

南丹市社協としては、事業の趣旨からして営業との判断を見直していただくよう要請するとともに、一旦ボランティアによる調理を休止し、業者対応で実施してきた。現在、府社協を交え京都府・保健所との協議が続いているが、結論が出ていない以上、事業の再開は構わないという京都府の考え方が示され、社協として各調理ボランティアへ事業再開の依頼をしたところである。

園部においては1月から再開となったが、美山では高齢化のため今回で調理ボランティアが解散されることとなった。また、八木では、保健所の判断がはっきり出ていないことに加え調理室の環境も十分整ったものでないことから事業再開に踏み出せないなど、課題が生じている。

今後も京都府・南丹保健所との協議を続けるとともに、事業のありかたについても検討が必要と考えている。

(1) 配食実績

園部：年 8回(計632食) 八木：年 12回(計687食) 美山：年 11回(計258食)

⑧ 心配ごと相談

市からの委託事業として、京都弁護士会との契約により、予約制により無料法律相談を実施した。各支所年間6回実施。実施時間は午後1時～4時で、相談時間は1回30分とした。

【 詳細については別に報告 】

⑨ 各種団体・サークル・当事者組織・福祉まつり等の支援

各町ボランティア連絡協議会への事務局支援。日吉・美山地域においては、老人クラブ連合会、身体障害者福祉会支部、また、八木・美山では、福祉まつり実行委員会への支援を行った。

- | | |
|--------------------|-----------|
| (1) 八木ふれあいふくしまつり | ※台風のため中止 |
| (2) 美山福祉のつどい | 12月 7日(土) |
| (3) 園部ひとり暮らし高齢者の集い | 10月29日(火) |

2. 介護予防・生活支援事業 (※南丹市委託事業)

① 生活支援型配食(食の自立支援事業) ※全町で実施

前年と同様の内容により、食の自立を支援する目的に加え、軽度認知症等の利用者に対し、安否確認や見守りも兼ねた配食を行った。また、2食配食及び特別食(きざみ食等)の対応に向け協議を行った。

(1) 支援実績

- | | | | |
|------------------|----------|----------------|--------|
| ア) 園部：3月現在利用登録者数 | 31人、年間延べ | 3,843食(夕食) | |
| イ) 八木：3月現在利用登録者数 | 45人、年間延べ | 13,300食(昼食・夕食) | ※特別食あり |
| ウ) 日吉：3月現在利用登録者数 | 45人、年間延べ | 7,001食(夕食) | ※特別食あり |
| エ) 美山：3月現在利用登録者数 | 82人、年間延べ | 11,286食(昼食・夕食) | ※特別食あり |

② 外出支援サービス事業

※全町で実施

概ね 65 歳以上で公共交通機関を利用することが困難な方を対象として事業を実施した。外出支援サービスの利用範囲拡大のニーズはますます高まっており、特に、公共交通手段が少ない山間地域における「移動手段の確保」は重要な課題となっている。公的施策の抜本的な見直しも含め、更なる対策の検討が必要である。また、つくし園利用者で希望者に対して並行通園施設への輸送を行った。

一方、運転者には交通安全を徹底した。また、外出支援に携わる運転スタッフの高齢化等、運転者の確保が今後の課題である。

(1) 外出支援実績

ア) 園部：3 月現在利用登録者数 165 人(対 4 月 36 人増)

年間延べ利用件数 2,273 件、延べ運行距離 72,508km (1 件あたり平均運行距離 31.9km)

イ) 八木：3 月現在利用登録者数 131 人(対 4 月 10 人増)

年間延べ利用件数 2,424 件、延べ運行距離 36,760km (1 件あたり平均運行距離 15.2km)

ウ) 日吉：3 月現在利用登録者数 208 人(対 4 月 15 人増)

年間延べ利用件数 2,955 件、延べ運行距離 96,971km (1 件あたり平均運行距離 32.8km)

エ) 美山：3 月現在利用登録者数 191 人(対 4 月 11 人増)

年間延べ利用件数 3,111 件、延べ運行距離 210,770km (1 件あたり平均運行距離 67.7km)

(2) 子ども発達療育支援輸送事業実績

ア) 園部：3 月現在利用登録者数 8 人(対 4 月 3 人増) 年間延べ利用登録者数 86 人

年間延べ利用件数 314 件、延べ運行距離 5,001km (1 件あたり平均運行距離 15.9km)

③ 軽度生活支援事業

※八木町・日吉町・美山町で実施

要介護状態等になることを予防し、自宅で自立した生活を送ることを目的に、日常生活上の軽微な支援を行った。現状では利用実績は低いものの、今後の当事業の重要性は高まると考えられる。さらに制度の周知が必要である。

(1) 支援実績

ア) 八木：3 月現在利用登録者数 5 人(対 4 月 4 人減)、年間延べ利用件数 294 件

イ) 日吉：3 月現在利用登録者数 12 人(対 4 月 1 人減)、年間延べ利用件数 527 件

ウ) 美山：3 月現在利用登録者数 0 人(対 4 月 土 0)、年間延べ利用件数 42 件

④ 生きがい活動支援通所事業

※八木町・日吉町・美山町で実施

要介護状態への予防、社会的孤立防止を目的にミニデイサービスを行った。今後も制度の周知を図るとともにサービス内容の充実に努めたい。

(1) 支援実績

ア) 八木：町内 4 ヶ所でそれぞれ毎週 1 回実施

3 月現在利用登録者数 37 人(対 4 月 11 人減)、年間延べ利用人数 1,705 人

イ) 日吉：町内 4 ヶ所でそれぞれ毎月 2 回実施

3 月現在利用登録者数 56 人(対 4 月 4 人減)、年間延べ利用人数 915 人

ウ) 美山：町内 5 ヶ所でそれぞれ毎月 2~3 回実施

3 月現在利用登録者数 127 人(対 4 月 13 人減)、年間延べ利用人数 2,468 人

3. 募金活動

① 共同募金事業・日本赤十字社員増強運動への協力

日本赤十字社員増強運動については、5月を運動期間とし、500円を目安に社資のご協力をいただくよう、各区長に協力をお願いした。また、赤い羽根共同募金及び歳末助け合い募金については、南丹市共同募金委員会の決定に基づき、10月から12月の期間に各500円を目標に一括してお願いをすることとし、各区長をお願いした。

特に、赤い羽根共同募金及び歳末助け合い募金については、地域の支え合い助け合いのための活動に生かしていただくため、共同募金委員会内部に募金改革委員会が設置され、市民を応援する共同募金として報告書がまとめられた。

(1) 募金額

日赤社資 4,202,200円 赤い羽根共同募金 4,470,116円 歳末たすけあい募金 3,803,008円

4. ファミリー・サポート・センター事業（※南丹市委託事業）

今年度は新規会員の登録もあったが、転居による退会者が多かったことで、会員増加には繋がらなかった。依頼会員については順調に増加している。提供会員については、今年度「まかせて会員講習会」の内容を充実させるため、時間を見直したことにより、前年度は2日間の講習で会員登録できていたものが、今年度は3日間拘束してしまうことになり、仕事をされている方や育児中の方には続けての受講が難しくなったと考えられる。しかし、「安全」「安心」を心がけて活動していただくためにも必要な講習時間と考えており、講師の方にも講義内容を見直していただくなど、より充実した内容に努めている。今後も是非多くの方に受講いただけるよう、講師との日程調整や広報の方法などについて検討し進めていきたい。

(1) 会員数

	提供会員 (まかせて会員)	依頼会員 (おねがい会員)	両方会員	計
前年度末会員数	102人	102人	11人	215人
今年度入会者数	5人	27人	1人	33人
今年度退会者数	5人	10人	0人	15人
今年度末会員数	102人	119人	12人	233人

(2) 説明会の開催 延べ35名

〈内 訳〉 提供会員(まかせて会員) 6名 依頼会員(おねがい会員) 27名 両方会員 2名

(3) マッチング

〈実施数〉 34回 〈成立数〉 34回

(4) 相互援助活動件数 181件

(5) 講習会・交流会・フリー託児ルーム

ア) まかせて会員講習会の開催 年間2.5回(8月、10月、1月) 受講者: 18人

イ) レベルアップ講習会に開催 12月 「牛乳・乳製品料理講習会」 参加者: 11人

ウ) おねがい・両方会員交流会の開催 2月 「アロマでタッチセラピー」 参加者: 9人

エ) 会員交流会(会員外参加可)の開催 3月 「こまゆの飾り巻き寿司教室」 参加者: 39人

オ) フリー託児ルーム 年間9回 延利用者数 22人

平成 25 年度 配食サービス事業(ふれあい型) 実績報告書

支所	月	独居高齢者数(人)	利用登録者数(人)	定 期		特別(行事・催事食等)		
				食数(食)	月平均(食)	食数(食)	内 容	月平均(食)
園部支所	4月	86	89	81	79.0			
	5月	83	86	79				
	6月	83	86	82				
	7月	83						
	8月	83	86					
	9月	81	84	79				
	10月	84						
	11月	85	82	82				
	12月	85						
	1月	83	80	80				
	2月	81	76	76				
	3月	82	73	73				
	支 所 合 計				632	---	0	---
八木支所	4月	64	64	61	57.3			
	5月	64	64	59				
	6月	64	64	59				
	7月	62	62	58				
	8月	62	62	59				
	9月	62	62	59				
	10月	62	62	60				
	11月	61	61	58				
	12月	64	64	56				
	1月	64	57	54				
	2月	64	57	50				
	3月	64	57	54				
	支 所 合 計				687	---	0	---
日吉支所	4月							
	5月							
	6月							
	7月							
	8月							
	9月							
	10月							
	11月							
	12月							
	1月							
	2月							
	3月							
	支 所 合 計				0	---	0	---
美山支所	4月	20	21	20	23.5			
	5月	19	21	21				
	6月	22	27	26				
	7月	22	27	26				
	8月							
	9月	21	27	25				
	10月	20	26	24				
	11月	19	25	25				
	12月	19	25	23				
	1月	19	24	23				
	2月	19	24	22				
	3月	19	24	23				
	支 所 合 計				258	---	0	---
合 計				1,577	50.9	0	---	0.0

平成 25 年度 配食サービス事業(ふれあい型) 実績報告書

支所	月	ボランティア等活動協力者数				備考
		調理	配食	食器消毒	その他	
園部支所	4月	15	24			
	5月	16	24			
	6月		24			
	7月					提供なし
	8月					"
	9月		23			
	10月					提供なし
	11月		23			
	12月					提供なし
	1月	10	25			
	2月	11	24			
	3月	15	23			
		67	190	0	0	
八木支所	4月	14	22	12		絵手紙(誕生日月の方に)
	5月	14	22	12		"
	6月		21			"
	7月		20			"
	8月		19			"
	9月		20			" 昼寝枕・ボケ防止グッズ(弥生会より)
	10月		21			"
	11月		20			"
	12月		20			"
	1月		20			"
	2月		20			"
	3月		20			"
		28	245	24	0	
日吉支所	4月					提供なし
	5月					↓
	6月					↓
	7月					↓
	8月					↓
	9月					↓
	10月					↓
	11月					↓
	12月					↓
	1月					↓
	2月					↓
	3月					↓
		0	0	0	0	
美山支所	4月	8	4			
	5月	4	5			
	6月		5			お弁当業者委託 (ショップ21)
	7月		5			" (")
	8月					提供なし
	9月		5			お弁当業者委託 (ショップ21)
	10月		4			お弁当業者委託 (ポリジ)
	11月		4			お弁当業者委託 (ショップ21)
	12月		4			" (")
	1月		5			" (")
	2月		5			" (")
	3月		5			" (")
		12	51	0	0	
		107	486	24	0	

平成25年度 心配ごと相談(無料法律相談)事業 実績集計表

月	地 域	会 場	開所 日数	相談実績	
				内訳	合計
4月	南部地域	園部公民館	1	6	11
	北部地域	社協 日吉支所	1	5	
5月	南部地域	八木公民館	1	6	10
	北部地域	美山保健福祉センター	1	4	
6月	南部地域	園部公民館	1	6	8
	北部地域	社協 日吉支所	1	2	
7月	南部地域	八木公民館	1	6	8
	北部地域	美山保健福祉センター	1	2	
8月	南部地域	園部公民館	1	5	7
	北部地域	社協 日吉支所	1	2	
9月	南部地域	八木公民館	1	6	7
	北部地域	美山保健福祉センター	1	1	
10月	南部地域	園部公民館	1	4	10
	北部地域	社協 日吉支所	1	6	
11月	南部地域	八木公民館	1	5	8
	北部地域	美山保健福祉センター	1	3	
12月	南部地域	園部公民館	1	2	5
	北部地域	社協 日吉支所	1	3	
1月	南部地域	八木公民館	1	4	4
	北部地域	美山保健福祉センター	1	0	
2月	南部地域	園部公民館	1	6	8
	北部地域	社協 日吉支所	1	2	
3月	南部地域	八木公民館	1	3	3
	北部地域	美山保健福祉センター	1	0	
合計	南部地域	園部支所 取扱分	6	29	59
		八木支所 取扱分	6	30	
	北部地域	日吉支所 取扱分	6	20	30
		美山支所 取扱分	6	10	
			24	89	

平成 25 年度 日本赤十字社資募集実績 報告書

区 別			社費(社員から拠出されるもの)		寄 付 金		計	
			件数	金額(円)	件数	金額(円)	件数	金額(円)
社 資 額 内 訳	500 円未満	個人			37	8,500	37	8,500
		法人						
	500 円～ 999 円	個人	600	300,000	7,338	3,669,200	7,938	3,969,200
		法人			8	4,000	8	4,000
	1,000 円～ 1,999 円	個人	9	9,000	17	17,000	26	26,000
		法人						
	2,000 円～ 9,999 円	個人						
		法人						
	10,000 円～ 19,999 円	個人						
		法人			1	12,500	1	12,500
	20,000 円～ 99,999 円	個人						
		法人						
	100,000～ 199,999円	個人						
		法人						
	200,000 円 以上	個人						
		法人						
合 計		個人	609	309,000	7,392	3,694,700	8,001	^(a) 4,003,700
		法人	0	0	9	16,500	9	^(b) 16,500

当該世帯数	2,561 件	取 扱 い		
協力世帯数	8,001 件	南 丹 ⑩ 区	町村	学区
		郡	番地	
募集額{(a)+(b)}	4,020,200 円	(福)南丹市社会福祉協議会		
		合 計		

平成25年度 共同募金実績

＜実績額 年度推移＞

年度	募金実績額	前年度との差額
平成20年度	11,276,349	
平成21年度	10,581,092	-695,257
平成22年度	8,391,742	-2,189,350
平成23年度	8,383,877	-7,865
平成24年度	8,369,918	-13,959
平成25年度	8,273,124	-96,794

＜平成25年度 目標額 達成度＞

赤い羽根共同募金		歳末たすけあい募金	
目標額	実績額	目標額	実績額
4,572,000	4,470,116	3,900,000	3,803,008
目標との差	-101,884	目標との差	-96,992
達成度	97.77%	達成度	97.51%

＜募金実績集計表＞

支 所	世帯数	赤い羽根共同募金			その他			歳末たすけあい募金			合計金額	
		戸別募金			戸別募金			その他				
		件 数	対世帯数	金 額	件 数	対世帯数	金 額	件 数	対世帯数	金 額		
本 所	—	—	—	—	—	—	—	—	—	38,027	318,344	
国部支所	5,450	3,757	68.9%	1,629,400	—	—	15,870	3,606	66.2%	1,550,800	0	3,196,070
八木支所	2,563	2,029	79.2%	1,010,750	—	—	27,044	1,944	75.8%	966,500	0	2,004,294
日吉支所	1,943	1,384	71.2%	700,700	—	—	158,337	1,307	67.3%	658,600	0	1,517,637
梁山支所	1,822	1,212	66.5%	602,000	—	—	45,698	1,160	63.7%	587,300	1,781	1,236,779
合 計	11,778	8,382	71.2%	3,942,850	—	—	0	8,017	68.1%	3,763,200	0	8,273,124

＜戸別募金以外の募金(その他の募金)内訳＞

支 所	街頭募金	法人募金	学校募金	職域募金	前年度期間外募金	個人・その他募金	合 計
本 所	1,946	10,000		235,768	24,503	8,100	280,317
国部支所	15,870						15,870
八木支所	22,044	5,000					27,044
日吉支所	93,337	66,000					159,337
梁山支所	20,326		25,372				45,698
合 計	153,523	80,000	25,372	235,768	24,503	8,100	527,266
本 所					12,500	25,527	38,027
国部支所							0
八木支所							0
日吉支所							0
梁山支所						1,781	1,781
合 計	0	0	0	0	12,500	27,308	39,808

包括支援の部

総 括

高齢者が地域で暮らし続ける取り組みとして、民生委員と個別の情報交換を行い、独居・高齢者世帯の全戸確認を行った。その中で訪問の必要に応じて自宅訪問を行い状況を確認する中で、必要なサービスへ連携し、高齢者が地域で孤立しない対策を取ってきた。この取り組みを通して、民生委員と職員の顔つなぎができ、その後の連携もしやすくなった。今後も継続して実施する予定である。

相談件数が年々増加してきていることは、地域包括支援センターの知名度や役割が住民や関係機関に浸透してきたことが要因と考えられる。一方で相談の増加により職員が迅速に対応できない部分もあった。

認知症を地域で支える取り組みとして、平成 24 年度から継続して取り組みを行った。南丹市でネットワーク構築を目的に、「徘徊 SOS つながろう南丹ネット」の事業が開始となり、事前登録、協力機関の申し込みを受け付けた。八木町ではこの事業を想定したフロー図の検証と、地域住民の認知症についての理解を深めることを目的として、徘徊模擬訓練を実施した。訓練を行った地域では認知症についての関心が高くなることから、未実施の園部・日吉地域で今後も実施していく。課題を見出し、検証を重ねながら事業が展開していけるよう取り組んでいく。

毎年継続して実施している認知症サポーター養成講座は、今年度は 16 ヶ所で開催し 347 名の受講があった。受講者は認知症を正しく理解し、認知症の人や家族の応援者となり、地域の見守りの担い手として期待されるため、次年度も取り組みを継続していく。

認知症や障がいのため認識力や判断力に不安のある方を対象に、福祉サービスの利用援助や日常的金銭管理を支援する福祉サービス利用援助事業については、今年度も相談が増加した。初期相談の段階から、複雑かつ多重な困難さを抱えた世帯の相談が増えており、各関係機関との連携や、場合によっては成年後見制度利用への支援が必要なものが特に増えている。

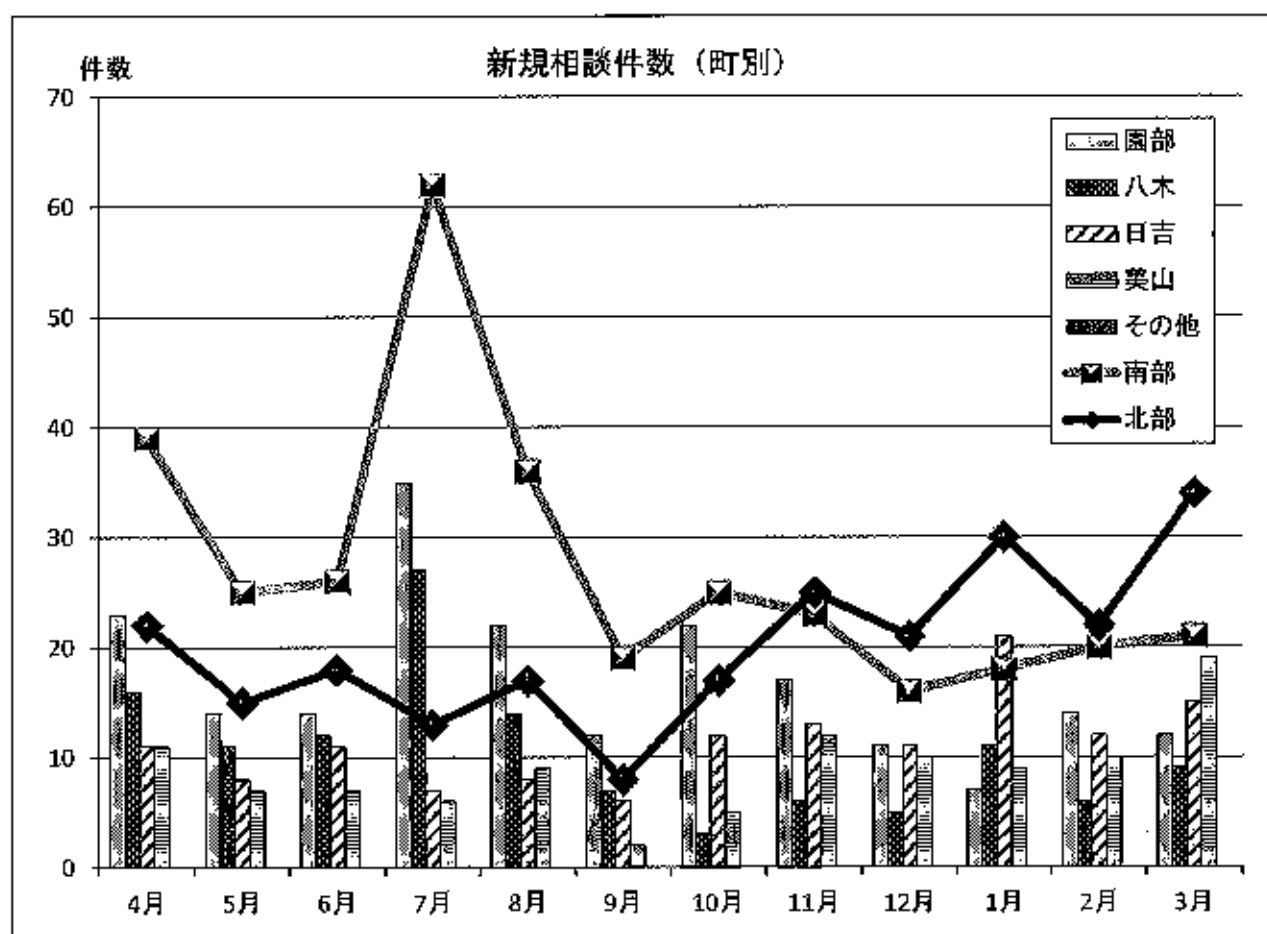
福祉資金貸付事業も相談件数は増加し続けている。今年度に特に多かったのが、教育資金と生活費の貸付相談であった。教育費の高額化や就労の困難さが特に相談増加に関係している様相がある。他制度においての給付・貸付の支援制度との狭間を埋める当事業として、今後も世帯の自立更生を目的に利用していただくために、新たな運用方法や制度そのものの変更を検討していく必要があると考えられる。

1. 南丹地域包括支援センター事業

① 相談事業

(1) 新規相談件数（町別）

		件 数												
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
(内訳)	南 部	39	25	26	62	36	19	25	23	16	18	20	21	330
	園部	23	14	14	35	22	12	22	17	11	7	14	12	203
	八木	16	11	12	27	14	7	3	6	5	11	6	9	127
(内訳)	北 部	22	15	18	13	17	8	17	25	21	30	22	34	242
	日吉	11	8	11	7	8	6	12	13	11	21	12	15	135
	美山	11	7	7	6	9	2	5	12	10	9	10	19	107
その他		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計		61	40	44	75	53	27	42	48	37	48	42	55	572

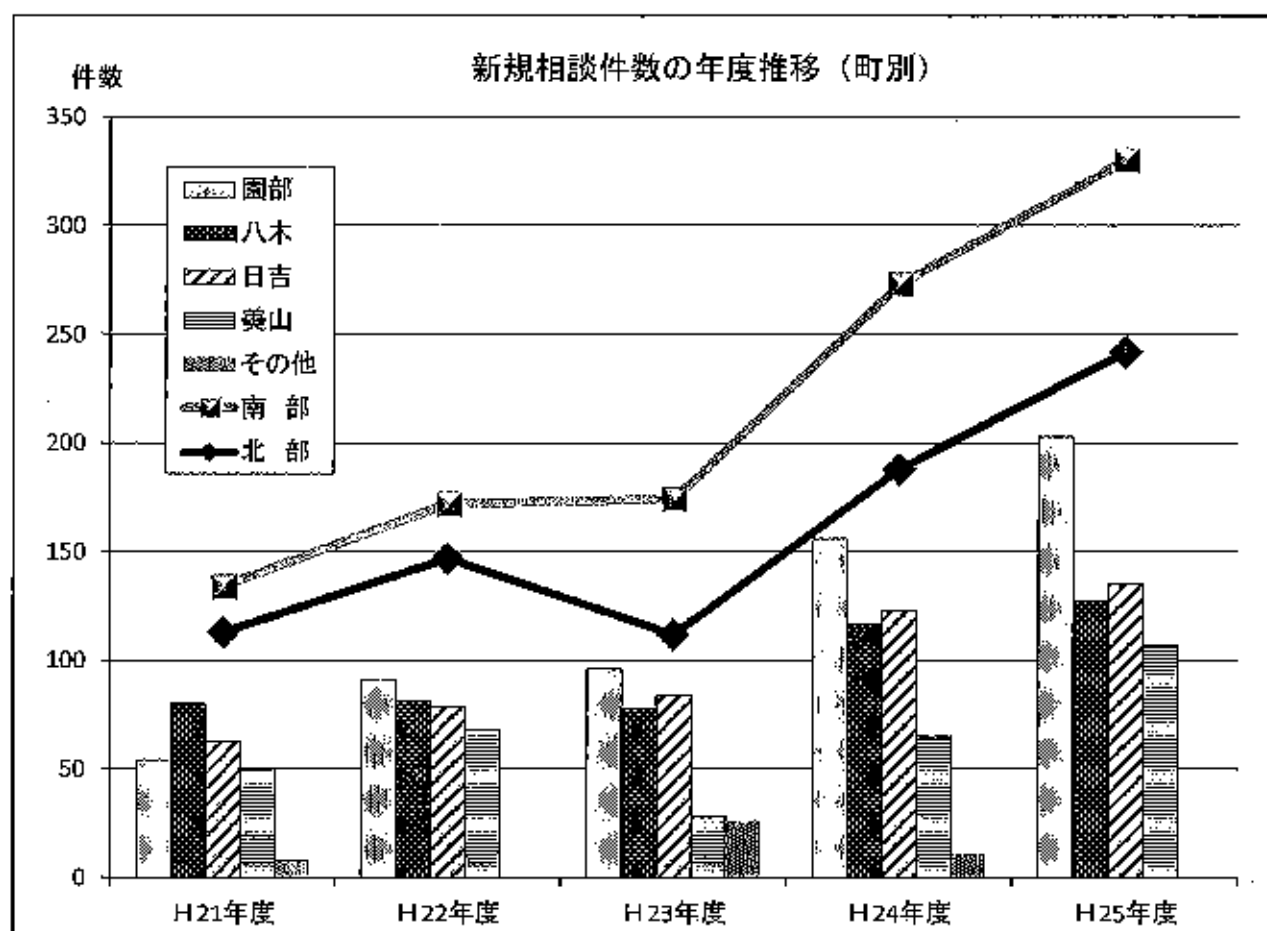


※上記は、データベース（以下「DB」）システムの集計数。相談件数の実数はこれよりも多いと考えられる。

※相談件数は、国部（約35.5%）、日吉（約23.6%）、八木（約22.2%）、美山（約18.7%）の順に多い。

(2) 新規相談件数の年度推移（町別）

		件 数				
		H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度
南 部 (内訳)	南 部	134	172	174	273	330
	園部	54	91	96	156	203
	八木	80	81	78	117	127
北 部 (内訳)	北 部	113	147	112	188	242
	日吉	63	79	84	123	135
	美山	50	68	28	65	107
その他		8	0	26	11	0
合 計		255	319	312	472	572



※上記は、DBシステムの集計数。

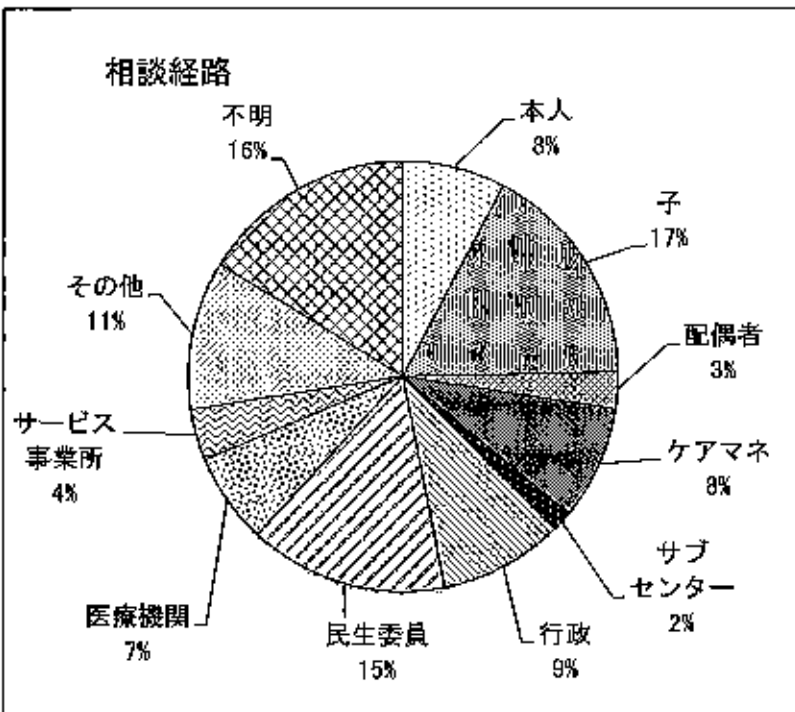
※相談件数は年々増加傾向にある。

※平成23年度に北部の相談件数が減少したのは、DB入力されていない件数が多かったためと考えられる。

※平成24年度に相談件数が著しく増加したのは、DB入力を徹底したためと考えられる。

(3) 相談経路

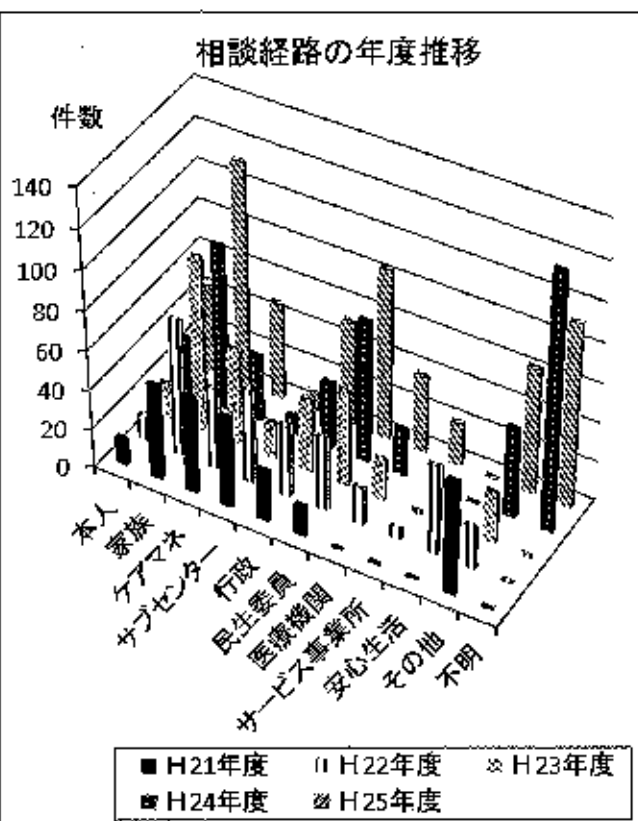
相談経路	件数	割合
本人	44	7.7%
子	97	17.0%
配偶者	16	2.8%
ケアマネ	49	8.6%
サブセンター	9	1.6%
行政	53	9.3%
民生委員	86	15.0%
医療機関	39	6.8%
サービス事業所	22	3.8%
その他	64	11.2%
不明	93	16.3%
合 計	572	100.0%



※「その他」には、近隣住民やふれあい委員、社協職員などが含まれる。

(4) 相談経路の年度推移

	件 数				
	H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度
本人	13	12	17	29	44
家族	48	69	89	83	113
ケアマネ	49	41	49	34	49
サブセンター	46	47	18	9	9
行政	26	36	37	34	53
民生委員	15	37	49	72	86
医療機関	0	19	21	24	39
サービス事業所	0	5	1	11	22
安心生活	0	45	9	0	0
その他	58	21	26	46	64
不明	0	0	0	130	93
合 計	255	332	316	472	572



※「家族」には、子・配偶者を含む。

※「本人」「家族」「民生委員」「医療機関」「サービス事業所」からの相談件数は、年々増加している。

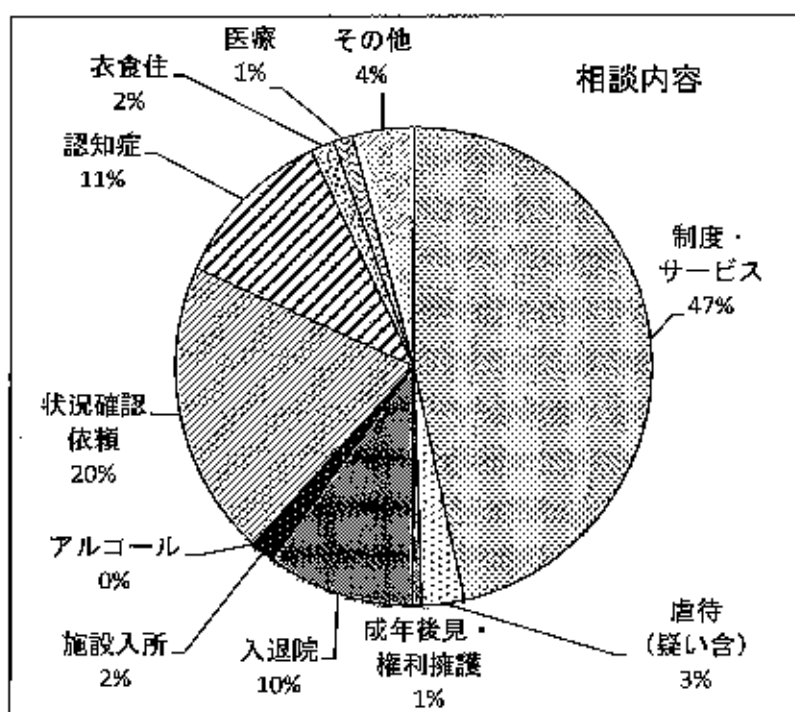
※「ケアマネ」「サブセンター」からの相談件数は減少傾向にある。

※「安心生活」とは安心生活創造事業(国モデル事業)のこと。平成23年度でモデル期間が終了している。

※平成22年度・平成23年度は重複計上あり。

(5) 相談内容

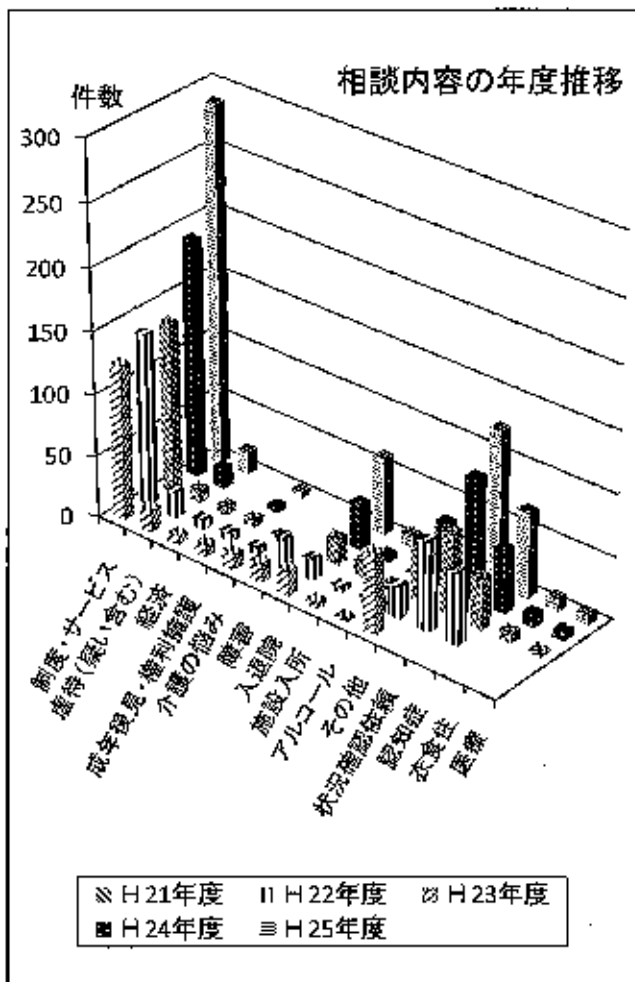
相談内容	件数	割合
制度・サービス	288	46.5%
虐待（疑い含む）	18	2.9%
成年後見・権利擁護	4	0.6%
入退院	62	10.0%
施設入所	9	1.5%
アルコール	1	0.2%
状況確認依頼	124	20.0%
認知症	69	11.1%
衣食住	10	1.6%
医療	8	1.3%
その他	26	4.2%
合 計	619	100.0%



※「その他」には、ケアマネや事業所からの相談・報告、行政や社協等の関係機関につなぐ相談内容、経済関係、障害関係などが含まれる。

(6) 相談内容の年度推移

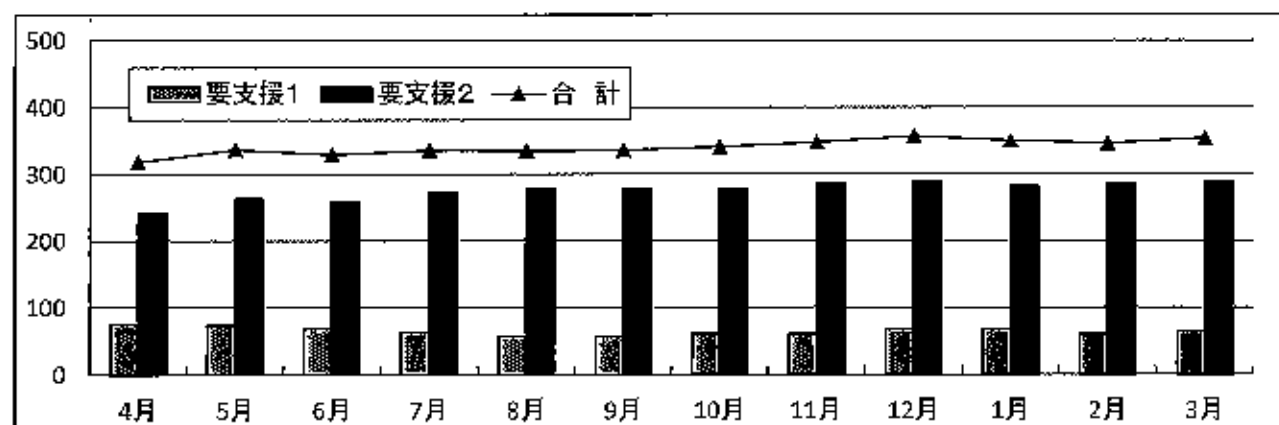
	件 数				
	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度
制度・サービス	125	138	136	192	288
虐待（疑い含む）	18	20	10	16	18
経済	7	7	6		
成年後見・権利擁護	10	7	6	4	4
介護の悩み	13	5	2		
障害	15	22			
入退院	20	16	21	37	62
施設入所	5	4	12	5	9
アルコール	2	5	4	0	1
その他	65	26	40	52	26
状況確認依頼		72	67	98	124
認知症		58	41	51	69
衣食住			8	10	10
医療			3	7	8
合 計	280	380	356	472	619



② 介護予防給付実績

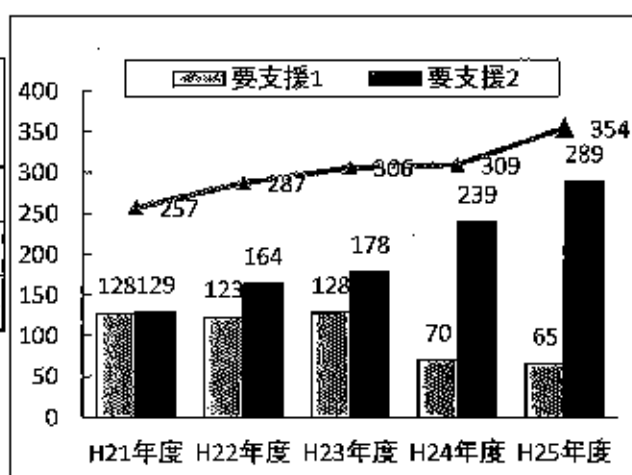
(1) 介護予防支援サービス利用件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要支援1	76	74	69	64	57	57	62	61	68	68	61	65
要支援2	242	263	260	272	278	279	279	287	289	282	285	289
合 計	318	337	329	336	335	336	341	348	357	350	346	354



(2) 要支援度別認定者数の推移

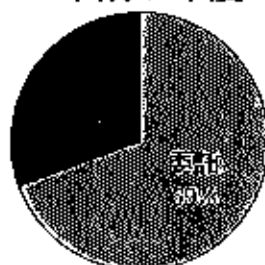
	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
要支援1	128	123	128	70	65
要支援2	129	164	178	239	289
合 計	257	287	306	309	354



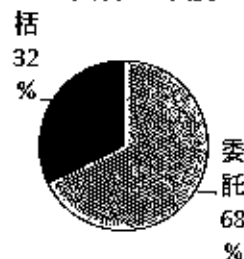
(3) 支援プラン委託状況

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
委託	174	210	222	208	236
包括	83	77	84	101	104
合 計	257	287	306	309	340

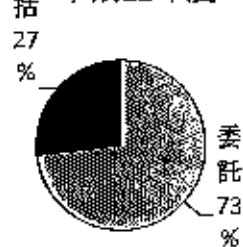
平成25年度



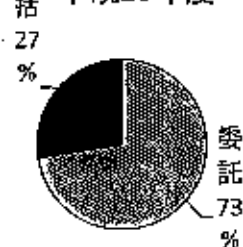
平成21年度



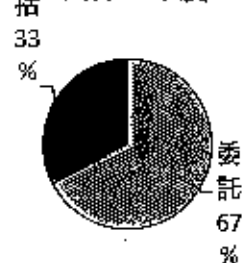
平成22年度



平成23年度



平成24年度



③ 介護予防 二次予防事業

(1) 二次予防事業対象者実態把握：訪問・電話・郵送にて状況を把握し、保健師に報告 (単位：人)

園部	八木	日吉	美山	合計
91	13	27	10	141

(2) 生き生き筋力トレーニング教室参加者のアセスメント及びプラン作成、終了後の評価 (単位：人)

園部	八木	日吉	美山	合計
21	19	29	25	94

◆住民健診の問診時に同封された基本チェックリストにもとづき、二次予防事業対象者を南丹市保健医療課（保健師）が選定する。保健師から依頼のあった対象者を、地域包括支援センター職員が訪問し、状態を把握している。

◆必要に応じて 各教室への案内、申し込み手続きの支援を行っている。

◆筋トレ教室参加予定者に対しては、訪問によるアセスメントの後、計画書を作成。

◆教室の終了後に、評価を実施している。

◆年間を通じての教室で 定期的な外出や他者との交流の機会を得て、楽しい時間を過ごされる。

◆教室内でADL(※注)の低下などを保健師から連絡を受け、介護保険申請に至るなど、連携をとって高齢者の生活支援を行っている。

※注記

・ADL (Activities of Daily Living)：日常生活動作

④ 高齢者虐待（疑い含む）件数

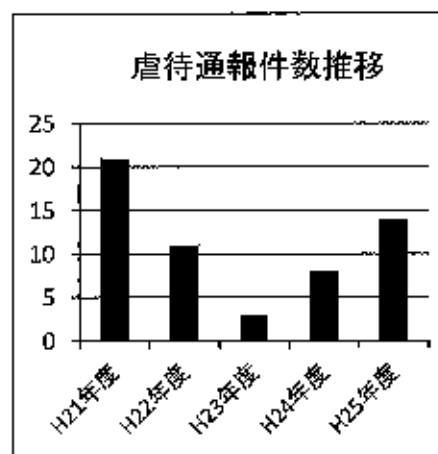
(1) 虐待通報件数 14 件

(2) 相談者内訳

相談者	件数
民生委員	1
ケアマネ	7
サービス事業所	2
医療機関	0
行政	2
その他	2
合 計	14

(3) 虐待種別 <重複あり>

種 類	件数
身体的虐待	6
心理的虐待	3
介護放棄	3
性的虐待	0
経済的虐待	1
疑い・不適切な状況	4



(4) 被虐待者の内訳

性別	人数
男性	2
女性	12
合 計	14

年代	人数
64歳以下	0
65～69歳	0
70～74歳	0
75～79歳	2
80～84歳	5
85歳以上	7
合 計	14

要介護度	人数
自立	4
要支援1	0
要支援2	1
要介護1	3
要介護2	2
要介護3	2
要介護4	0
要介護5	1
未申請	1
合 計	14

認知症有無	人数
あり	7
なし	5
不明	2
合 計	14

(5) 養護者の内訳

性別	人数
男性	11
女性	6
合 計	17

年代	人数
30歳以下	0
30～40歳	2
41～50歳	2
51～60歳	8
61～70歳	4
71歳以上	1
合 計	17

被虐待者との関係	人数
夫	1
妻	0
息子	9
娘	3
息子の妻	3
娘の夫	1
孫	0
合 計	17

同居の有無	人数
同居	16
別居	1
合 計	17

⑤ 支援困難事例ケース会議実施状況

地 域	回数	参加者(機関) ※ケースに応じて参加要請
園部町	16	社会福祉課・高齢福祉課・保健医療課・子育て支援課・市障がい相談員 保健所精神相談員・民生委員・保護司・警察署・ケアマネジャー 介護保険サービス事業所・障害福祉サービス事業所 等
八木町	13	
日吉町	9	
美山町	3	
合 計	41	

⑥ 認知症サポーター養成講座 開催状況

	月日	地域	対象者	サポーター数	キャラバンメイト	内 容
1	4 月 9 日 (火)	日吉町	生畑老人クラブ	33 人	安田、福井	スライド、テキスト、DVD
2	4 月 15 日 (月)	日吉町	四ツ谷老人クラブ	35 人	松本、福井	"
3	5 月 31 日 (金)	美山町	南いきいきサロン	10 人	上蘭、松本	スライド、テキスト
4	6 月 22 日 (土)	八木町	野榮有志サロン 「ひまわりの会」	9 人	市原、安田、 本多	スライド、 テキスト、寸劇
5	6 月 25 日 (火)	園部町	部落解放同盟木崎支部 女性部・木崎町婦人会	16 人	奥村、平井	スライド、 テキスト、DVD
6	7 月 4 日 (木)	園部町	南丹市立摩気小学校 4年生	15 人	中嶋、奥村、 平井	スライド、テキスト
7	7 月 17 日 (水)	日吉町	畑郷老人クラブ	17 人	安田、福井	"
8	7 月 25 日 (木)	日吉町	下田原老人クラブ	27 人	安田、福井	"
9	9 月 14 日 (土)	八木町	本町6丁目住民	14 人	平井、本多、 大西	スライド、 テキスト、寸劇
10	9 月 21 日 (土)	八木町	南地区住民	6 人	文宇、奥村、 本多、大西	"
11	9 月 24 日 (火)	美山町	北桑田高校4年 「家庭看護福祉」授業	5 人	上蘭、栗原	スライド、テキスト
12	11 月 2 日 (土)	園部町	南大谷地区住民	11 人	奥村、上蘭	スライド、 テキスト、DVD
13	11 月 22 日 (金)	園部町	殿谷地区住民	25 人	福井、本多	"
14	12 月 10 日 (火)	日吉町	胡麻郷小学校6年生 児童、PTA、教員	50 人	近田氏、 職員の方々 (はぎの里DS)	テキスト、 DVD、寸劇
15	1 月 19 日 (日)	園部町	横田区老人会 若三会	51 人	はぎの里 オアシス	テキスト、 DVD
16	3 月 16 日 (日)	園部町	若森地区住民	23 人	奥村、本多	スライド、 テキスト、DVD
合 計				347 人		

認知症サポーター養成講座 取り組みの経過

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
開 催 数	10	14	25	16
サポーター数	214	302	401	347

⑦ 医療・保健・福祉ネットワーク会議 ～認知症を地域で支える取り組み～

	国 部	八 木	日 吉	美 山
4月	※各地域ごとに開催(八木：4/15 国部：4/18 日吉：4/19 美山：4/16) ①情報交換 ②認知症を地域で支える取り組みについて I 南丹市徘徊SOSネットワーク「つながるう南丹ネット」、美山での徘徊模倣訓練実施報告／II 認知症サポートチームについて			
5月		5/20 ①情報交換 ②介護予防教室について(保健医療課) ③認知症を地域で支える取り組み ◆徘徊模倣訓練実施について グループワーク		
6月	※各地域ごとに開催(八木：6/17 国部：6/20 日吉：6/19 美山：6/18) ①情報交換 ②H24年度消費者被害事例(南丹広域振興局 消費生活相員：多田悦子氏より) ③H24年度介護保険、南丹市サービス利用実績報告(高齢福祉課)			
7月		7/22 ①情報交換 ②H24年度介護保険、南丹市サービス 利用実績報告(高齢福祉課) ③認知症を地域で支える取り組み ◆徘徊模倣訓練実施に向けて 意見交換		
8月	※各地域ごとに開催(八木：8/19 国部：8/22 日吉：8/21 美山：8/20) ①情報交換 ②高齢者に関わる「うつ」について(◆高齢者のうつ・自殺の特徴／◆事例報告、質疑応答) ③徘徊模倣訓練の準備経過報告(八木のみ)			
9月		9/17(※台風18号の影響により中止)		
10月	※全体研修(4町：10/28) ○ゲートキーパー養成講座 『悩んでいる人に勇気を持って声をかけてみませんか?』 ～自殺の現状とゲートキーパーの役割～ ●参加人数：78名、アンケート実施(60件回収)			
	ふりかえり			
	養成講座の受講者からは、自殺の現状やゲートキーパーの役割を理解し、今後の業務に活かせようという意見をいただいた。			

11月	11/19 ①情報交換 ②認知症を地域で支える取組について ◆八木町南地区 徘徊模擬訓練 ※実施報告報告書・映像 ◆意見交換 ③南丹市安心見守りシステム(高齢福祉課) ふりかえり つながる南丹ネット事業の活用については、事前登録の必要性や防災無線の有効性、訓練継続の必要性を確認した。		
12月	12/19 ①情報交換 ②認知症を地域で支える取組について ◆八木町南地区 徘徊模擬訓練 ※実施報告報告書・映像 ③ゲートキーパー養成講座の報告 ④南丹市安心見守りシステム(高齢福祉課) ふりかえり 徘徊模擬訓練の有効性を認識し、運営方法について、実務レベルでの意見をいただいた。定期開催の希望意見があった。	12/16 ①情報交換 ②八木町のV活動(社協) ◆意見交換 ふりかえり ボランティアの高齢化が進み、次世代への引き継ぎがなかなかうまくいかず地域で手を取り合っていく必要がある。	12/18 ①情報交換 ②認知症を地域で支える取組について ◆八木町南地区 徘徊模擬訓練 ※実施報告報告書・映像 ③ゲートキーパー養成講座の報告 ④南丹市安心見守りシステム(高齢福祉課) ふりかえり つながる南丹ネット、徘徊模擬訓練の運営方法について、実務レベルでの意見をいただいた。
H26 1月			12/17 ①情報交換 ②認知症を地域で支える取組について ◆八木町南地区 徘徊模擬訓練 ※実施報告報告書・映像 ③ゲートキーパー養成講座の報告 ④南丹市安心見守りシステム(高齢福祉課) ふりかえり 徘徊模擬訓練の有効性を認識し、定期的な開催を希望する意見をいただいた。
H26 2月	※各地域ごとに開催(八木：2/17 園部：2/20 日吉：2/19 美山：2/18) ①情報交換 ②台風18号のふりかえり[◆災害ボランティアセンターの報告(社協)／◆被災後の訪問活動(保健医療課)] ③今年度のネットワーク会議まとめ(H25.4～H25.12)、来年度の取組内容について[◆意見交換] ふりかえり ・災害についての当時の状況や、様々な意見をいただいた。災害マニュアルは対応しきれなかったもので、見直しが必要な時期にきている。 ・園部町が一番被害が大きかったこともあり、防災に関する意見をいただいた。災害マニュアルや避難所の見直し・再検討といった意見もいただいた。		
H26 3月			

⑧ ケアマネ連絡会

	開催日	内容・講師	参加人数
第1回	4月17日(水)	情報交換・研修 「介護支援専門員が果たす役割とはなにか？」 ～利用者の思い暮らしを支援する相談援助専門職として～ 花園大学社会福祉学部 福富昌城教授	29名
第2回	7月19日(金)	南丹市と情報・意見交換会 南丹市役所高齢福祉課 前原課長補佐 社会福祉課 高橋課長補佐	24名
第3回	9月20日(金)	情報交換・研修 「お薬について知ろう！高齢者服薬管理のポイント」 ゆう薬局南丹亀岡ブロック長 小林篤史薬剤師 「認知症の治療薬について」 みずほゆう薬局 石岡隆明薬剤師	22名
第4回	11月15日(金)	情報交換・事例研究会事例発表 ①「大阪から美山町に転居された認知症の女性と家族をどう支えるか」 ほほえみ美山居宅介護支援事業所 竹内朱美氏 ②「高度認知症の夫を介護し家庭内にも山積みの問題を抱えるケース」 ほほえみ八木居宅介護支援事業所 松本久仁子氏	24名
第5回	1月17日(金)	情報交換・研修 「高齢者の栄養について」 明治国際医療大学付属病院 住野あつみ管理栄養士	26名
第6回	3月14日(金)	情報交換・研修 「医療との連携・訪問看護の活用法」 園部丹医会病院訪問看護ステーション 中川節子管理者	25名

⑨ ケアマネ事例検討会

	開催日	タイトル	事例提供者	参加人数
第1回	4月19日(金)	経済不安を抱える利用者への支援について	ほほえみ八木 河村CM	11名
第2回	6月20日(木)	認知症の進行に伴う暮らし方の変化と住み慣れた地域	地域包括支援センター 安田 センター長	9名
第3回	8月22日(木)	サービス利用に至らない認知症 独居の人の支援	地域包括支援センター 本多 主任CM	8名
第4回	10月17日(木)	地域と共に支えながら介護支援専門員の役割が果たせなかった事例	小規模多機能ホームだんない 中嶋CM	8名
第5回	12月19日(木)	難病を患い思うような暮らしが実現できていない事例	長生園 西田ケアマネ	7名

⑩ なんとん通所サービス部会

	開催日・場所	活動内容
第1回	5月17日(金) 社協 八木支所	役員改選、年間計画検討
第2回	6月18日(火) 社協 本所	「意見交換会」 日常業務の中で悩んだり困ったりしている事を意見交換
第3回	10月8日(火) 園部公民館	研修会「通所サービスで役立つリハビリや体操」 講師：園部丹医会病院 川瀬啓介氏
第4回	3月11日(火) 社協 本所	研修会「これは急変なの、受診が必要？ ～急変を見抜く観察ポイントや医療処置を学ぶ～」 講師：総合福祉施設京都桂川園 副園長 鎌田松代氏

⑪ 介護者(家族)の会

(1) 園部町介護者の会 なごみの輪 [会員数 : 28名]

活動日	活動内容
4 月 25 日 (木)	・総会 ・座談会 ・今年度の取り組みについて
6 月 27 日 (木)	・園部町介護者リフレッシュへの参加 ・近況報告
8 月 28 日 (水)	はぎの里オアシス 見学会&食事会(1階レストラン「なごみ」での食事) ・施設見学 ・食事をしながらの交流 ・近況報告
10 月 23 日 (水)	勉強会「腰痛予防について」(予防体操・正しい姿勢 等の勉強会) 講師：丹医会病院 理学療法士 川瀬先生、浅井先生、竿田先生
12 月 12 日 (木)	南丹市介護者交流事業(南丹市国際交流会館) 風鈴演奏会・昼食交流会
2 月 25 日 (火)	勉強会&交流会「介護保険サービスについて」 ・包括支援センターより説明 ・手続きや不安な点など参加者同士でアドバイス、交流

(2) 八木町介護者(家族)の会 たんぽぽ [会員数 : 57名]

活動日	活動内容
4 月 23 日 (火)	『たんぽぽの会 総会』 ・総会について ・平成24年度事業 決算報告 ・平成25年度事業・予算・他
5 月 23 日 (木)	役員会 ・年間計画について
6 月 17 日 (月)	広報『たんぽぽニュース』発行
6 月 19 日 (水)	・八木町介護者交流事業へ参加(会食と苔玉体験)
7 月 19 日 (金)	・男性料理教室
9 月 24 日 (火)	役員会 ・ふくしまつりについて ・地区別懇談会について 広報『たんぽぽニュース』発行 地区別懇談会：南地区(10/26)、神吉地区(11/2)、北・西地区(11/13)
11 月 19 日 (火)	役員会 ・ふくしまつり反省 ・懇親会について
12 月 12 日 (木)	・南丹市介護者交流事業 参加(風鈴コンサート鑑賞・会食) ※合計：77名参加(八木町：18名参加)
12 月 13 日 (金)	広報『たんぽぽニュース』発行 地区別懇談会：東地区(12/20)
1 月 24 日 (金)	・平成25年度 懇親会(八木町老人福祉センター)
2 月 1 日 (土)	広報『たんぽぽニュース』発行
2 月 21 日 (金)	・おしゃべり会(八木町老人福祉センター)
3 月 17 日 (月)	・男性料理教室
3 月 24 日 (月)	役員会 ・平成26年度 『たんぽぽの会 総会』について

(2) 日吉町介護者の会 絆の会 [会員数 : 27名]

活動日	活動内容
4 月 25 日 (木)	総会(社協日吉支所) ・平成24年度活動報告、会計報告 ・平成25年度活動計画、予算 ・座談会
6 月 27 日 (木)	介護者リフレッシュ事業 ・会食交流会(烟河) 会食、カラオケ交流
8 月 27 日 (火)	昼食会(農園食堂Aube) 会食、近況報告会
10 月 8 日 (火)	昼食会(日吉山の家) 会食、勉強会「介護保険、認知症について」
12 月 12 日 (木)	南丹市介護者交流事業(南丹市国際交流会館) 風鈴演奏会・昼食交流会
2 月 13 日 (木)	交流会 今年度の振り返り、次年度の計画

(3) 美山町介護者の会 あいの会 [会員数 : 20名]

活動日	活動内容
4 月 22 日 (月)	第5回「あいの会」総会(美山町高齢者コミュニティセンター) ・平成24年度活動報告、決算 ・平成25年度 事業計画、予算 ・交流会
5 月 15 日 (水)	園部まごころステーション陽だまり 見学・食事会
6 月 17 日 (月)	茶話会(美山町高齢者コミュニティセンター)
7 月 16 日 (火)	介護者家族リフレッシュ事業(美山文化ホール) アロマ&カラーセラピー講座 講師：林陽子氏
9 月 19 日 (木)	茶話会(美山町高齢者コミュニティセンター)
10 月 16 日 (水)	茶話会(美山町高齢者コミュニティセンター)
11 月 14 日 (木)	昼食会・紅葉狩り(大野ダム・レイクサイド虹)
12 月 12 日 (木)	南丹市介護者交流事業(南丹市国際交流会館) 風鈴演奏会・昼食交流会
1 月 15 日 (水)	【研修】ワークセンターびび地域交流事業(美山町基幹集落センター) オープンランチ(昼食会)
2 月 14 日 (金)	茶話会(美山町高齢者コミュニティセンター)
3 月 13 日 (木)	茶話会(美山町高齢者コミュニティセンター)
※原則として毎月15日に活動(8月は休み)し、開催月にニュース発行 ※認知症キャラバンメイト養成研修 ※介護者交流事業(リフレッシュ事業)は、家族会として参加(介護者教室・交流会は個人参加) ※美山町高齢者コミセンでの茶話会・交流会 →たくさんの方に来ていただくため、出欠をとらない形で開催	

2. 家族介護者交流事業

各地区(町域)でそれぞれ1回、市全域で1回、計年5回実施した。

【 園 部 町 】

〔日 時〕 平成25年6月27日(木)
〔場 所〕 丹波ワイン工場(京丹波町)
〔参加者〕 22人
〔内 容〕 ワイナリー見学、昼食・交流会

【 八 木 町 】

〔日 時〕 平成25年6月19日(水)
〔場 所〕 丹波茶屋ゆらり(綾部市)、山野草の森(京丹波町)
〔参加者〕 28人
〔内 容〕 昼食・交流会、苔玉づくり体験

【 日 吉 町 】

〔日 時〕 平成25年6月27日(木)
〔場 所〕 京都烟河(亀岡市)
〔参加者〕 12人
〔内 容〕 昼食・交流会

【 美 山 町 】

〔日 時〕 平成25年7月16日(火)
〔場 所〕 美山文化ホール
〔参加者〕 18人
〔内 容〕 アロマセラピー講座、昼食・交流会

【 市 全 域 】

〔日 時〕 平成25年12月12日(木)
〔場 所〕 園部国際交流会館
〔参加者〕 <午前> 61人(園部22人、八木20人、日吉7人、美山12人)
 <午後> 56人(園部15人、八木22人、日吉7人、美山12人)
〔内 容〕 <午前> 風鈴ゆらぎコンサート(演奏:日向真&ユニイ)
 <午後> 昼食・交流会

3. 福祉サービス利用援助事業（地域福祉権利擁護事業）

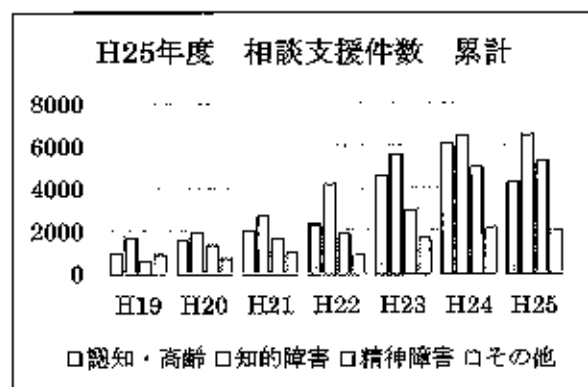
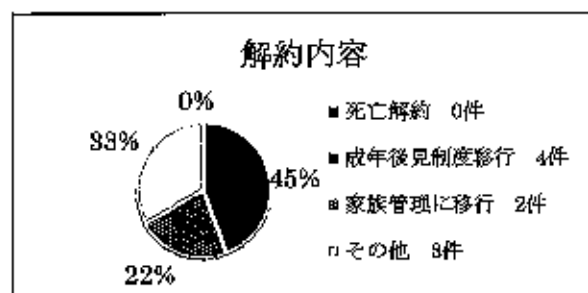
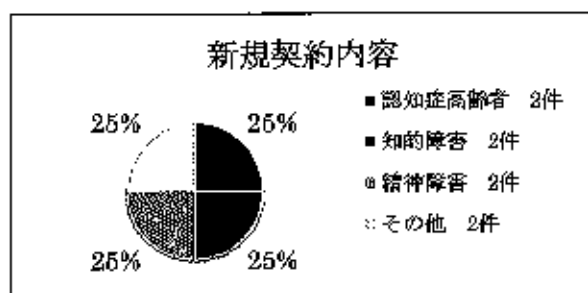
認知症、知的障害、精神障害やその他の理由で判断能力が不十分なために、様々な福祉サービスの利用が困難な状況の方への援助の一つとして当事業を行っている。

相談件数は増えており、相談当初から複雑な問題を抱える世帯のケースが多く、そのまま成年後見制度の利用を提案することが多くなっている。そんな理由で、相談を受けてもそのまま新規契約には結び付いていかない。しかし成年後見制度の利用が妥当でも、報酬を払えないなどの理由で当事業を利用するしかないこともあり、そういった場合は支援担当者にかかる負担が大きい。

また解約に関しても、判断能力が低くなって当事業での支援の限界に達し、成年後見制度利用への支援ケースが多くなってきている。契約は利用者個人と行うが、問題を抱えているのは世帯全体であり、利用者一人との契約で、世帯全体の支援をせざるを得ない状況も多い。

一方予算面では、次年度は府下利用率による事務費交付へと変更になるが、これまで通り、予算の確保については上申していきたい。

年度	相談件数	新規契約	解約
H24	15	13	6
H25	20	8	9



支 所	H24年度末支援件数状況					生保受給世帯
	内 訳				合計	
	認知症高齢者等	知的障がい者等	精神障がい者等	その他		
園 部	4	6	8	3	21	7
八 木	6	6	2	3	17	7
日 吉	3	1	3	1	8	2
美 山	0	4	3	0	7	2
合 計	13	17	16	7	53	18

支 所	H25年度末支援件数状況					生保受給世帯
	内 訳				合計	
	認知症高齢者等	知的障がい者等	精神障がい者等	その他		
園 部	1	6	8	5	20	9
八 木	8	6	2	3	19	7
日 吉	2	2	1	0	5	2
美 山	0	4	4	0	8	2
合 計	11	18	15	8	52	20

4. 生活福祉資金貸付事業

生活福祉資金貸付事業は、「低所得世帯への相談支援」であり、貸付を行うことで困窮している世帯の自立更生を目的とするものである。「単なる貸付」ではなく、根本的な問題を解きほぐす手段の一つとしての位置付けで「相談支援」を展開してきた。

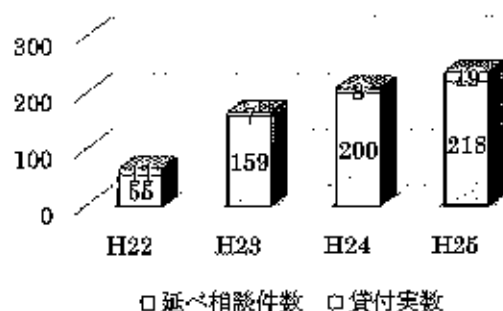
たとえ貸付に至らなくとも、じっくり時間をかけて面談し、貸付以外に妥当な制度や解決方法を一緒に考えて行くことが、社協が当事業を展開している意味であり重要性である。

学校や行政などの関係機関にて当事業が周知・浸透し始め、連携されての相談が増えてきた。その場合、最初から貸付対象者である為、貸付件数も増加している。特に教育支援資金の貸付件数が顕著に増加した。

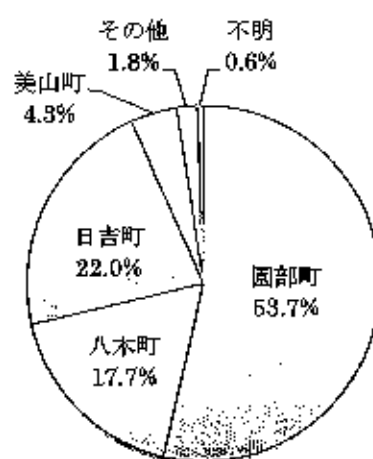
昨年度までは管理事務面での整備を行い、一定の成果（支所本所間の連携対応、個別ファイル管理、データ管理等）を見た。今後は京都府社協と南丹市社協間のデータリンクや電子台帳の整備について協議していくことになっている。個人記録のシステム化についても同様に進めていく。

また、生活支援センターでの生活困窮者自立支援事業との連携も絡めて、社会資源の一つとして有意義な運用方法も考えていく。

年度別相談受付数 推移



平成25年度 旧町別受付内訳



平成 25 年度 町別相談件数内訳

園部町	八木町	日吉町	美山町	その他	不明
88	29	36	7	3	1

平成 25 年度 相談件数内訳

	総合支援資金			教育支援資金		不動産担保型生活資金	緊急小口資金	福祉費	不明や非該当	制度について	その他	合計
	生活支援費	住宅入居費	一時生活再建費	教育支援費	就学支援費							
相談	2			27	33		50	66	7	14	19	218
貸付				2	5		6	6				19

＜傾向と考察＞

- ・相談対応件数と貸付件数ともに、前年度を上回った。相談件数増加は、貸付までに複数回の面談を行い、じっくりと問題解決に当たっているためと考えられる。
- ・教育支援資金の貸付は、前年度に比べ大幅な増加となった。これは教育費の高額化と中若年層の低収入化が表れていると考えられる。
- ・就労活動を前提とする総合支援資金の相談は少なかったが、一方で就労内定前提の運転免許取得（技能習得費）や就労後の初任給までのつなぎ費用のための借用相談は多くあった。そのうち、内定のほとんどは派遣雇用であり、常勤雇用は減っている様相がある。

生活福祉資金貸付事業 相談・対応件数

月別件数(※重複計上あり)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
件数	31	22	9	7	16	7	
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	16	1	8	10	21	16	164

実人数
71

町別件数

	園部町	八木町	日吉町	美山町	その他	不明	合計
件数	88	29	36	7	3	1	164
実人数	37	16	13	3	2	0	71

男女別件数

	男性	女性	不明	合計
件数	114	48	2	164
実人数	46	24	1	71

相談対象者の年代別件数

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	不明	合計
件数	42	8	11	50	26	8	9	10	164
実人数	15	5	5	15	11	4	7	8	71

資金の種類と貸付実績(※重複計上あり)

平成26年 3月31日現在

	総合支援資金(※離職者用)			教育支援資金		不動産担保型生活資金	緊急小口資金	生業
	生活支援費	住宅入居費	一時生活再建費	教育支援費	就学支援費			
相談件数	2	0	0	27	33	0	50	5
貸付件数	0	0	0	2	5	0	6	0
	技能修得	住宅	福祉用具購入	障害者自動車購入	中国残留邦人年金追納	療養	介護等	災害援護
相談件数	9	2	0	4	0	15	0	7
貸付件数	2	0	0	0	0	2	0	1
	冠婚葬祭	転宅	支度	一般福祉	不明非該当	制度について	その他	
相談件数	10	7	0	7	7	14	19	
貸付件数	0	0	0	1	0	0	0	

合計
218
19

5. 暮らしの資金貸付事業

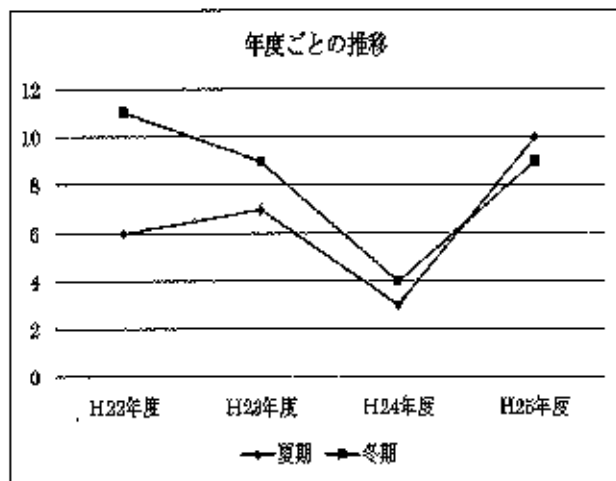
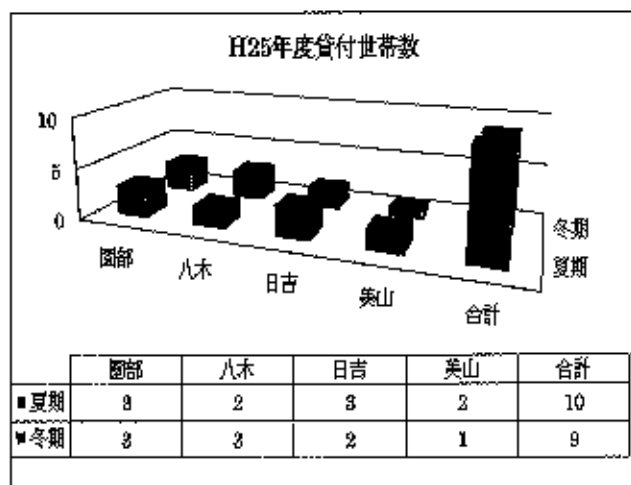
暮らしの資金貸付事業は南丹市からの受託事業であり、貸付により、一時的に困窮している世帯の自立更生を目的とするものである。一世帯に対して上限 10 万円の貸付である。現在南丹市では夏期（8 月）、冬期（12 月）の年に 2 回の貸付を実施しており、「お知らせなんたん」にて事前広報される。

京都府社協の生活福祉資金貸付制度では、償還面で折り合いがつかず貸付困難である場合でも、当制度では償還額が原則月 5 千円、場合によっては月千円などの少額償還にも対応でき、柔軟な支援が可能である。ただし、そのために償還期間が延び、最終的に償還困難とならないよう、日常的な見守りや能動的な償還促進の活動が必要といえる。

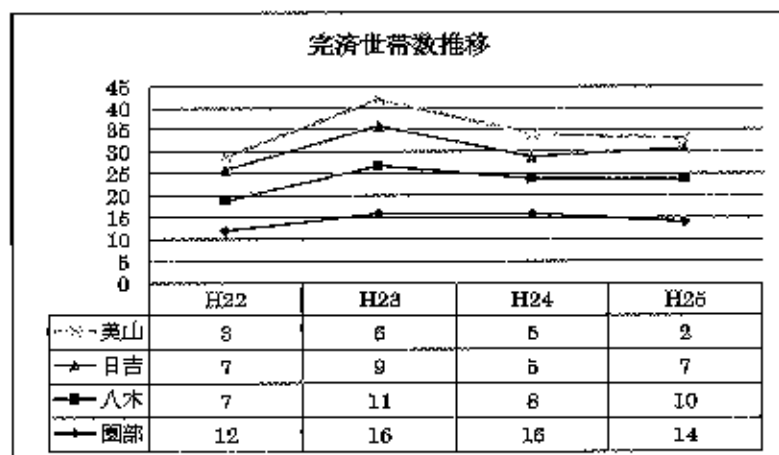
貸付相談時にじっくり丁寧に面談し、貸付の必要性を見極めること、また具体的に家計相談にも応じることで、ここ数年、繰り返し借り入れる（いわゆる「借り換え」）世帯が減ってきている。

一方で困窮世帯の増加も顕著になっており、民生委員をはじめとする地域の方にも協力いただい世帯の実情を把握し、他に利用できる制度等の情報を提供するなど、継続的かつ計画的に支援する仕組みをいかにつくっていくかが課題である。

次年度には生活福祉資金における生活保護受給世帯への貸付金控除がなくなることもあり、これまで以上に当制度の有益性が問われることとなる。



※前年度に比べ貸付数が増加、困窮世帯増加の表れか。



次年度、長期滞納世帯への償還促進を強化する予定

くらしの資金貸付事業 実績集計表

(※数値は申請受付時の状況による)

① 貸付世帯数

※ () は借り換え世帯数

	園 部	八 木	日 吉	美 山	合 計
夏 期	3 (0)	2 (2)	3 (0)	2 (0)	10 (2)
冬 期	3 (0)	3 (0)	2 (0)	1 (0)	9 (0)
合 計	6 (0)	5 (2)	5 (0)	3 (0)	19 (0)

② 貸付世帯数の中の生活保護世帯数

※ () は借り換え世帯数

	借入世帯	内、生活保護世帯
夏 期	10 (2)	6 (2)
冬 期	9 (0)	3 (0)
合 計	19 (2)	9 (2)

③ 貸付世帯構成

※ () は生活保護世帯数

	高齢親と成人した子	単 身	母子・父子	高齢夫婦	高齢ではない夫婦のみ	未成年の夫婦と子	成人した夫婦と子	その他	合 計
夏 期	0	6 (5)	1 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	10 (6)
冬 期	2 (1)	2 (1)	2 (1)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	9 (3)
合 計	2 (1)	8 (6)	3 (1)	2 (1)	1 (0)	1 (0)	2 (0)	0 (0)	19 (9)

④ 借入理由

※重複計上あり

	生活費	電化製品等購入費	滞納税金支払滞納	教育・医療費	修繕車検水道分担	事業資金	収入減収
夏 期	1	2	2	3	2	0	1
冬 期	1	3	0	4	1	0	0
合 計	2	5	2	7	3	0	1

⑤ 完済世帯数

※ () は借り換えによる完済

	園 部	八 木	日 吉	美 山	合 計
完済世帯数	14 (0)	10 (2)	7 (0)	2 (0)	33 (2)

6. 地域活動支援センター

総 括

今年度は職員が代わり、上半期は積極的に活動に取り組めなかったが、10月以降は各センターの地域性・利用者特性を考慮した個別の活動が活発化できた。また生産活動やイベントも利用者の意向を反映したものに近づけ、加えて利用者の抱える課題について、関係機関との連携を強化、ケース会議も活発化し成果を上げ始めた。

① そよかぜ八木

- (1) 地域住民向けの精神障害の理解を目的とした座談会を開催し好評を得た。
- (2) 保健所から精神保健福祉士を招いてのそよかぜ職員向け研修会の立ち上げを実施した。
- (3) 利用者宅や生活圏域に出かけ、利用者の問題解決に取り組んだ。
- (4) オープンカフェやビーズ教室への一般参加など、地域住民との接点を広げ、センターと住民間の相互理解を深めた。

② そよかぜ日吉

- (1) ワークセンターびび日吉(以下「びび日吉」)と重複利用の方について、びび日吉と密に連携したことで、個別利用者への支援の面で情報交換などが綿密になるなど相乗効果をもたらした。
- (2) 民生児童委員協議会や支所等とともに、地域の協力を得て、引きこもりがちな障がい者へアプローチし、センターへの通所につながった。

③ そよかぜ美山

- (1) センター通所者の大半がワークセンターびび美山(以下「びび美山」)の利用者であり、びび美山との情報共有によって、利用者支援において連携が強化された。
- (2) 地域の障がい者への訪問を増やしたり、利用者の買い物等の希望や課題への取り組みを始めた。
※利用者と地域住民のとの交流を図るため、ボランティア団体に「そよかぜ土曜日」でゲスト出演していただいた。

(年度別利用者推移)

そよかぜ八木	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
登 録 者 数	22 人	22 人	27 人
利 用 延 べ 人 数	862 人	1,698 人	1,909 人
1 日平均利用者数	3.4 人	6.5 人	8.1 人

そよかぜ日吉	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
登 録 者 数	22 人	23 人	25 人
利 用 延 べ 人 数	813 人	1,506 人	1,214 人
1 日平均利用者数	3.9 人	6.0 人	4.7 人

そよかぜ美山	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
登 録 者 数	23 人	24 人	25 人
利 用 延 べ 人 数	1,175 人	1,430 人	1,674 人
1 日平均利用者数	4.9 人	5.7 人	6.7 人

居宅介護等事業・施設運営の部

総 括

今年度は、従来から引き続き一人暮らしの方、重度の要介護高齢者、さらには認知症高齢者、障がいのある方等、誰もが尊厳ある生活を送れるように、様々な価値観を尊重し「利用者本位の質の高いサービス」を提供することに職員一人ひとりが努めてきた。常に社会福祉協議会の事業所であることを意識し、市民から愛される事業所を目指して事業に取り組んだ。

また、介護保険事業所では、第三者評価を受診した結果、どの事業所も概ね法令に基づき健全で適正な事業運営が行われているとの評価を受けることができた。ただし細部においては改善や検討すべき点の指摘を受け、職員間で改善に向けて着手していった。課題の残っている点については引き続き次年度に取り組んでいきたい。

常に、プロの職員集団(チーム)としてのモチベーションを上げる取り組みとして研修や会議を重ね、サービスの質的向上と職員の資質の向上の相乗効果を上げ、信頼され選ばれる事業所として、安定した事業経営を継続できるように努めた。

訪問入浴介護事業については、他の民間事業所が南丹市全域のサービス提供を可能としたことで、当会の役割を果たせたと判断し、次年度は休止の決断に至った。業務の効率化や工夫により、経費の削減を図り、収益向上に結び付けることに全ての職員が意識して取り組んだ。

個々を尊重し地域住民と共に歩む社会福祉協議会として、誰もが尊厳ある生活が継続できるために、自立支援や、利用者本位の福祉サービスの提供のより良いあり方を、今後も追い求めていかなければならない。

また、障がい福祉分野では、相談支援の充実、障害児支援の強化を図るため、当会でも障害児相談支援事業所開設に向けて取り組んだ。平成 27 年度には相談支援事業が法制化されることもあり、今後児童分野以外でも具体的に取り組んでいく必要がある。

居宅介護等事業

1. ほほえみ園部・八木・日吉・美山 居宅介護支援事業所（居宅介護支援事業）

利用ニーズが多様な中、利用者にとってより良い在宅生活をマネジメントし、最善の支援ができる援助者としての活動を行ってきた。また、他職種との連携を意識し、お互いを尊重しながらチームの一員としてのかかわりができるように努めた。今後も対人援助者として感性を磨き、『気づき』を大切にした支援を行っていきたい。

今年度においては、第三者評価を受診し、日々の業務の見直し、各事業所の課題の確認ができた。

また、介護支援専門員として、研修や事例検討を通して、複雑なケースにも援助者としての専門性を高めるように努力した。しかし、高齢世帯の増加や医療ニーズの高まる中で、限られた介護サービスなど、必要な支援に応えられない現状がある。これらは地域の事情による課題も多く、社会資源の活用または、模索していくことも今後検討が必要である。

さらに、9月の台風18号災害により、緊急時の支援のあり方についても、介護支援専門員としての対応等に課題が見えてきた。この経験により災害時要援護者台帳の作成、有事の際に専門職としての関わり方、防災に関する情報を普段から地域住民と考えていく重要性を認識するきっかけとなった。状況によっては、ケアマネジャーが介護保険制度以外の領域にも、視野を広げることが期待されていると実感した。

なんたんふれあいプランにも掲げられているように、専門職として今後ますます地域住民との協働を目指していくことの大切さを実感したと共に、開かれた事業所づくりが重要であると感じている。

2. ほほえみ八木・日吉・美山 訪問介護事業所（訪問介護事業）

[ほほえみ八木・日吉・美山 居宅介護事業所（居宅介護事業）]

今年度は第三者評価の受診により、業務の見直しを図ることができた。サービスの中身についての再検討、またはマニュアルについて指摘を受け、次年度に向けての課題として取り組む目標とした。全体としては適正な事業運営の実施ができていると評価を受けた。

前年度に引き続き満足度調査を実施し、利用者の思いを受け止め、貴重な意見もいただき、現場職員へ迅速に報告し、現状分析をした結果、改善に努めた。職員の資質の向上に結びつけるためにも、研修についても継続的に受講し職員それぞれが自己研鑽に努めた。

また、年度を通して、登録ヘルパーのなり手が無いという課題があり、求人広告媒体(新聞折込み等)を用いて募集するなどしたが、応募者がなく、訪問介護員の増員には及ばなかった。ただし、人員不足からサービス提供をお断りしたことなく、今年度はすべての利用ニーズに応えることはできた。次年度については、平成27年度の介護保険制度改正を見据えながら、ご利用者にとって最善のサービスを目指していきたい。

ヘルパー研修
(調理実習)



3. ほほえみ八木 通所介護事業所（通所介護事業）

ニーズが多様化している中、より柔軟な対応、受け入れができる事業所を目指し、サービスを提供してきた。

一日あたり定員30人の大規模通所介護ではあるが、「個別援助の充実を」を合言葉に、きめ細やかな記録を始め、日々の業務を丁寧に行うことで、職員が力を合わせサービスの質の向上に努めてきた。こうした取り組みを続けていくことで、職員の意欲・意識が向上し、部内研修の積極的な開催や自己研鑽への取り組みにつながった。

地域との連携、協働という点においては、たくさんの地域のボランティアの協力があり、レクリエーションの充実や利用者との関わりに尽力いただいた。また、ボランティアが気軽に来所できるよう、職員とボランティアとの関係づくりにも力を注いできた。

また、感染症対策については流行時のマスク着用、手指の消毒、消毒マットの設置など様々な対策を講じてきた。その結果、年間を通して感染症による大きな被害はみられなかった。

課題としては、定員充足率のムラが激しく、収益面で厳しい部分があった。安定した利用者確保に向け、課題をしっかりと分析しあらゆる対応策を講じ、利用者はもとより家族、関係機関からも信頼される事業所づくりに努めていきたい。

4. ほほえみ八木 訪問入浴介護事業所（訪問入浴介護事業）

重度の要介護者であっても、住み慣れた自宅で安心・安全に入浴できるようサービスの提供に努めてきた。入浴だけではなく、利用者一人ひとりと関わる時間を大切にして精神面でのケアにも力を注いできた。介護者との関わりにおいてはコミュニケーションを密に図り、日々の介護の疲れを少しでも軽減できるよう努めてきた。

公益性の高い社協としての使命から、採算を度外視し、地域の利用者ニーズに柔軟に対応してきたが、近年、他の民間事業所の対応可能地域が拡大したこともあり、事業の休止の決断に至った。事業所間でのサービスの引き継ぎに関しては、利用者、家族への理解も得て大きな混乱もなく休止に至ることができた。

5. やぎ詩の郷（地域密着型認知症対応型通所介護事業）

利用者のこれまでの生き方、価値観を尊重し、本人や家族に寄り添い、認知症であってもいつまでも住み慣れた地域で、安心してその人らしく暮らせるよう、地域に密着したサービスの提供を目指し、利用者一人ひとりが持つ力や可能性を活かしたサービスを提供してきた。

利用者の生活リズムに合わせた利用時間を設定するなど柔軟な対応を行い、毎月の「やぎ詩の郷職員会議」では、利用者のみならず、介護者にも目を向けたケアカンファレンスを行い、個別援助と介護者支援に努めた。介護者支援として、在宅生活の継続には何が必要かをそれぞれの職員が考え相談し、認知症介護のプロとしての意識を持ち、チームとして質の向上にもつなげた。

また、家族会の開催や、満足度調査を実施し、利用者と介護者の思いや悩み事の把握に努め、思いに寄り添った質の高いサービスの提供ができた。

社協の事業所としての意識を持ち、地域密着型サービスとして、地域のサロンへの参加、ボランティアの受け入れ、地域住民参加の行事を通して、事業所と地域との関係を密に保ち連携が図れた。しかし、今年度においては、地域との合同研修会が開催できておらず、地域

福祉の推進、向上、地域との関係強化を考える上で、今後は確実に開催していけるように努めたい。

今年度は、第三者評価を受診し、業務を振り返り、必要な書類等を再度確認し、法令に基づき整備が行えた。受診結果では、一定の評価は得られたが、業務改善につながる指摘も受けており、評価機関のアドバイスを参考にしながら、今後、さらなるサービスの質の向上の為、業務の効率化に努め、利用者へのきめ細やかでより良いサービスの提供につなげたい。

6. 小規模多機能ホーム だんない （小規模多機能型居宅介護事業）

小規模多機能型居宅介護の特徴を生かし、通いを中心に宿泊・訪問を組み合わせ、なじみの関係のなかで、生活できるサービスに努めた。また、利用者の体調不良や家族の体調不良・急用などにも柔軟に対応することができた。

サービス内容では個別性に重点を置き、畑仕事や家事、趣味やこだわり等の今までの生活歴に合わせた支援も小規模多機能型居宅介護ならではの考える。しかし、訪問サービスについては需要が少なく実績にはつながらない課題が残った。

地域密着型事業所の役割である地域への関わりや地域づくりといった点においては、次世代担い手事業に参加し、小学校での福祉教育に関わることができた。高齢者福祉に対しての理解を進めることができ、施設内での体験学習受け入れを通して、利用者と児童が楽しい時間を過ごすことができた。福祉教育をきっかけに、近隣の子どもたちが遊びにきてくれるようになり、その子ども達を通して近隣住民との交流の機会を増やすことができた。また地域福祉部門・包括支援部門と一緒に認知症サポーター養成講座にも参画することができた。

8月には「第2回だんない夏祭り」を開催し地域の方も大勢の参加だった。

また、10月の地域の秋祭りには、だんないが神輿行列の休憩場所となり地域住民との交流ができ利用者にとっても楽しい時間を過ごすことができた。

現在の利用者の更なる自立のためには、職員一人ひとりの資質の向上が必須となる。そのためにも明確な目標をもち、OJTを活かした研修体制をより効果的なものに発展させる必要があり、今後はサービスの質を向上させる取り組みが求められる。そして利用者、家族との信頼関係を深め、専門職としての技能向上に努め、住み慣れた馴染みの場所で暮らし続けられる地域づくりにも寄与していきたい。



だんない夏祭り



地域の方々との交流

施設運営

1. つくし園（児童発達支援事業）

年度当初は31名の利用契約数（実績29名）でスタートし、3月末には43名（実績38名・休園児5名）の支援を行った。

療育支援としては、事業計画の支援内容にも記載しているが、親子療育から開始し、子どもの発達について保護者と共通理解をしながら支援を行うという基本を崩さずに進めてきた。子どもへの関わり方に悩んでいる保護者の想いを受け止めながら、療育において同じ場面を共有する中で子どもの発達を一緒に考えていく姿勢で支援をおこなった。

単独療育では、生活の基盤である家庭や並行通園先（保育所・幼稚園など）での活動に困らないよう、療育活動を通してからだづくり・情緒の安定・意思伝達力の向上など、集団生活に対応できる力が育つよう個別支援プログラムに基づいて支援を行った。

保護者支援としては、専門職種（臨床発達心理士）と一緒に並行通園先を訪問する『面談』が定着してきた。その中で、今年度も就学に向けての支援を行った。午前中は保護者・つくし園・保健師・アドバイザーである臨床発達心理士との保育見学をし、午後からは、保育所（幼稚園）を含む各関係者でケースカンファレンスを行い、同じ場を共有することで一人の子どもに関わる関係者が共通認識できる機会となった。

今年度は保護者の希望により就学先の小学校へも連携依頼し、小学校を含む関係者が情報共有できる機会が持てた。混乱なくスムーズに学校生活のスタートが切れるようにとの保護者の思いから、移行に向けての連携ができた。

また、保護者どうしの交流が図れる場を提供する機会としては、家族の会の役員が中心となり、企画・準備に取り組み開催することができた。中でも休日を利用しての交流会では総勢61名（園児21名・保護者26名・兄弟8名・職員6名）という多数の参加者のもと、焼きそばを作ったり、ゲームを楽しんだりして過ごすことができた。父母や兄弟も参加し、家族以外の子ども達をお互いに見守ったり一緒に遊んだり、家族間の交流をする機会として充実した企画だった。家族の会の年間行事の中で、継続して取り組んでいた父親交流会については、残念ながら参加者が殆ど集まらず中止となった。

その他には、保護者のOBと教育委員会に依頼をし、就学に向けての懇談会や説明会、学童期の支援についての説明会としては、学童保育の担当職員、福祉サービスの職員から話を聞く機会も設けた。

関係機関との連携では、これまでと同様に保護者同意の上、関係機関との情報共有の基、子どもの発達を支援した。また、就学前の子どもについては、就学先の小学校も同席し、専門的なアドバイスを情報共有することができた。

南丹市子育て発達支援センターとの連携では、センターの作業療法士に相談を受けた子どもが、実際の療育という小集団の中でどのような課題があり支援が必要か、子どもの発達をみてもらう機会をもつことができた。また、職員の資質を高める機会として、つくし園内の職員研修に講師として招き、学習会も行った。

また、南丹市子育て発達支援センターの運営委員会（つくし園の運営も含む）では、つくし園家族の会会長より学校連携のシステム化について要望を提示されたことで、小学校側から南丹市子育て発達支援センター及びつくし園への見学が実施された。つくし園を修了した子どもたちが通う小学校との連携は、まだまだシステム化するには至っていないが、学校就学への移行支援が充実しつつあるように感じる。今後も南丹市子育て発達支援センターと連携を図りながら進めていきたい。

その他の関係機関との連携では、保護者からの要望（依頼）のもと迅速な対応に努めた結果、関係機関との連携回数は、学校（11 件）・花ノ木、ぶどうの木（85 件）・センター（20 件）・並行通園先（20 件）と、概ね 136 ケース連携を年間実施することができた。

昨年度までの課題であった学校連携（つくし園修了児の就学先訪問）についても、1 ケースを除いてすべて連携することができた。

また、保護者や小学校側から、園児の学校生活がスムーズに送れるようにと、支援の依頼が 1 ケースあり、つくし園で行っていた療育支援を実際の教育現場で助言できたケースもあった。

各年齢児に合わせた療育活動としては、電車を利用した日吉図書館行（年中児）や、地域のスーパーへの買い物活動（年長児）に継続して取り組んだ。今年度は、年少児においても親子陶芸教室を実施した。

地域の高齢者施設との交流として、同じ社協内の事業所でもある園部地域の「小規模多機能ホームだんない」との交流会を実施した。おばあさん達と一緒に歌を歌ったり豆まきをして過ごし、地域の高齢者とのふれあいの場を持つことができた。

今後の課題としては、小学校との連携（移行支援の充実）基盤を、確実なものにしていきたい。

2. あじさい園（多機能型事業〔就労継続支援B型事業・生活介護事業〕）

① 総括

(1) 就労継続支援B型事業

就労継続支援B型事業では、「働く」ことや「社会のマナー」について、作業や研修を通して理解してもらうことができた。なんたん障害者就業・生活支援センター主催の「就労セミナー」やハローワーク主催の「障害者合同就職面接会」等にも積極的な参加を行った。

授産売上について、就労継続支援B型、生活介護の合計では、前年度に対して今年度は 143 万円まで売上を増額することができた。八木駅前自転車等駐車場の指定管理や八木駅前の花壇整備事業、京都府そして南丹市の民生児童委員退任記念品の受注があったこと、また、新規に下請け企業を開拓したこと等が要因である。新規利用者が 3 名増えたことから、利用者全員の工賃向上までには至っていない。しかし、駐輪場業務に携わっている利用者に関しては、時給を高め設定していることで、少しではあるが工賃向上につながっている。今後、利用者それぞれににあった作業をすることで、一層「働く」ということに対する意欲に繋げていきたい。

(2) 生活介護事業

生活介護事業では、心身の機能維持を目的とした機能訓練については個別に実施し、ラジオ体操も継続している。1 時間という昼休みの過ごし方について、何をしてよいのかわからない利用者も多い中、コミュニケーションブック等、各々の興味のある物を介して職員が意識的な関わりを行ってきた。

その結果、自身から色々な意思表示をされるようになり、職員に自身の思いを伝えようとしてくれる姿も見られるようになってきた。また、少しずつではあるが利用者同士のコミュニケーションも増え、自身の意欲向上へとつながっている。小グループに分かれた社会参加の取り組みも実施し、今後も継続して行っていきたい。

(3) 両事業共通事項

今年度4月に丹波支援学校卒業生3名を迎え入れることができた。個別支援計画に基づく支援としては、ご自身はもちろん、ご家族の意向にも耳を傾け、時にはアドバイスさせていただきながら、共に目標達成を目指し、取り組むことができた。その成果として、就労継続支援B型事業の利用者1名が面接や実習、他機関との連携を重ね、就労継続支援A型事業へと移行することができた。事業別に業務が明確化できなかった点は、次年度への課題として、引き続き行っていきたい。利用者の特性が多様化し、人数も増えていることで、以前からスペースの確保が課題であったが、まずはトイレの増設について、サービス向上補助金を利用し、設置することができた。

② 職員の資質の向上・業務の明確化

職員の資質向上として、職員の研修参加は積極的に行った。外部研修に参加することで、現在の福祉を取り巻く状況や福祉制度、障害者の方への個別支援の方法や課題等、学ぶことができた。

また、職員の担当を明確にすることで、それぞれの職員が責任をもって業務に従事することができていた。今後は職員の負担が大きくなりすぎないように、いつでも話し合える職場づくりを目指したい。



【作業風景】
実習先での様子



【作業風景】
八木駅前花壇整備



【社会参加】
小グループでのランチ

3. ワークセンターびび（就労継続支援事業B型事業）

① 総括

今年度は、利用者の高齢化、障害機能の変化を受け、ワークセンターびびとして改めて事業のあり方を検証した年となった。就労継続支援B型事業として、利用者の工賃向上・安定を図るための作業推進だけでなく、無理のない作業環境を創造するため、利用者一人ひとりの障害特性を把握した環境整備、また課題が大きい場合は、各機関との連携によって最良の解決を図るため、ケース会議での検討を進めた。

一方で体調不良などから通所できない利用者や、転居・死亡などによる利用者減員要素も多く、新しい通所者の獲得に向け、支援学校へのアプローチを強化し、利用者が希望する自主製品の開発や農耕作業の取り組みを開始した。

さらには美山、日吉とも地域との関わり方を見直し、改めて密度の濃いものにするべく日吉でのびびまつり再開、へその市の立ち上げ、美山ではオープンランチの見直しなど新たな取り組みを開始した。

② 就労継続支援B型事業

(1) パンの製造・販売事業

若干の売上減となったが、従事する利用者の増員、持続を図るために作業フローの見直し、利用者の体調、精神面のフォローのための特性の把握や支援方法など、課題を抽出し解決方法を探ることに注力した。

(2) さをり織り事業

職員体制も変わり、生産計画→在庫管理→販売の流れが確定せず売上減となり、反省の多い年度であった、次年度は至急に見直しを図り、利用者も充実感をもって従事できる作業にしたい。

(3) 農耕活動の開始

初歩的な内容ながら、スプリングス日吉その他で販売を開始することができた。今後は限られた人員と利用者の体調を見ながら、最良の従事環境を考えたい。

③ 利用者支援

(1) 個別支援計画の作成、モニタリング作成プロセスの見直し、支援者として利用者に対する考え方を基本から見直し、自己決定に添った作成を心掛けた。

(2) 利用者の生活支援のための関係機関との連携

ご本人または家族が抱える課題を解決するために多様な支援を模索するための連携、あるいは反社会行動への対処など、事業所だけで抱えて各機関との連携を試みた1年であり、次年度はさらに利用者の生活環境、支援に取り組みたい。



月1回の懇談会



土にふれる農耕作業